



朝鮮食糧管理令制令案
右謹_テ裁可_ヲ仰_ク

昭和十八年八月三日

内閣總理大臣東條英機



農
林
省

昭和十八年八月二日

内閣書記官長

内閣書記官

内閣總理大臣

法制局長官

外務大臣

海軍大臣

商工大臣

大東亞大臣

内務大臣

司法大臣

遞信大臣

鈴木國務大臣

大藏大臣

文部大臣

鐵道大臣

大森國務大臣

陸軍大臣

農林大臣

厚生大臣

後藤國務大臣

別紙朝鮮總督上奏朝鮮食糧管理令制

定制令案

手書

手書

手書

手書

手書

手書

手書

手書

手書

手書

手書

手書

法制局

農務省

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ上奏案
ノ通裁可ヲ奏請セラレ可然ト認ム

指令案

朝鮮食糧管理令制定ノ件

上奏ノ通裁可ヲ經タリ

大正九年七月三日

官理局長 佐藤 貞三郎

18.7.

内務省朝管第一六九號

朝鮮食糧管理令制定ノ件

別紙指令案朝鮮食糧管理令制定ノ件進達

ス

昭和十八年七月三日

内務大臣 安 藤 紀 三 郎



内閣總理大臣 東 條 英 機 殿

内甲 四五二

第401号
18.6.29
内務省管理局

169

農秘第九六號

昭和十八年六月二十八日

朝鮮總督 小磯 國

内閣總理大臣 東條 英 棧 殿

朝鮮食糧管理令制定ノ件

別紙制令案朝鮮食糧管理令公布ノ必要有之候ニ付御裁可相成候様可然
御取計相成度候也



別紙副令案御裁可相成度

右謹テ奏ス

昭和十八年六月二十八日

朝鮮總督 小 磯 國



朝鮮總督府

農 林 省

内 務 省

農
林
省
官
制
令
第
一
號

農
林
省
官
制
令
第
一
號

制令第 一 號

朝鮮食糧官制令

第一條 本令ハ國民食糧ノ確保及國民經濟ノ安定ヲ圖ル爲食糧ヲ管理シ其ノ需給及價格ノ調整並ニ配給ノ規制ヲ行フコトヲ目的トス

第二條 本令ニ於テ米麥等トハ米穀、大麥、裸麥、小麥及粟ヲ謂ヒ主要食糧トハ米麥等及朝鮮總督ノ定ムル其ノ他ノ食糧ヲ謂フ

第三條 米麥等ノ生産者及小作件（朝鮮總督ノ定ムル其ノ他ノ給付ヲ含ム以下同ジ）トシテ米麥等ヲ受クル者ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ生産シ又ハ小作件トシテ受ケタル米麥等ニシテ朝鮮總督ノ定ムルモノニ付朝鮮食糧營團ニ對シ之ヲ政府ニ賣渡スベキ旨ノ委託ニ

朝鮮食糧官制令

ヲスベシ

第四條 前條ニ掲グル者ハ其ノ生産シ又ハ小作科トシテ受ケタル米麥等ニシテ前條ノ規定ニ依リ賣渡ノ委託ヲナスベキモノ以外ノモノニ付テハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ朝鮮食糧營團ニ對シ之ヲ政府ニ賣渡スベキ旨ノ委託ヲ爲スノ外之ヲ賣渡スコトヲ得ズ但シ朝鮮總督ノ定ムル場合ハ此ノ限ニ任ラズ

第五條 朝鮮食糧營團前二條ノ規定ニ依リ米麥等ノ政府ニ對スル賣渡ノ委託ヲ受ケタルトキハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ之ヲ政府ニ賣渡スベシ

第六條 前三條ノ規定ニ依リ政府方米麥等ヲ買入ルル場合ノ價格ハ生

産品及物價其ノ他ノ經濟事情ヲ參照シテ朝鮮總督之ヲ定ム

第七條 朝鮮總督ハ第三條ニ掲グル者ニ對シ同様ノ規定ニ依リ賣渡ノ委託ヲ爲スベキ米麥等ノ保管ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第八條 政府ハ其ノ買入レタル米麥等ヲ朝鮮食糧營團又ハ朝鮮總督ノ指定スル者ニ賣渡スモノトス

前項ノ場合ニ於ケル政府ノ買入ノ價格ハ家計費及物價其ノ他ノ經濟事情ヲ參照シテ朝鮮總督之ヲ定ム

第九條 政府ハ食糧管理上必要アリト認ムルトキハ米麥等以外ノ主要食糧ノ買入又ハ賣渡ヲ爲スコトヲ得

第三條、第五條、第七條及前條第一項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ政

朝鮮總督府

府が買入又ハ賣渡ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第一項ノ場合ニ於ケル政府ノ買入又ハ賣渡ノ價格ハ時價ニ準據シテ朝鮮總督之ヲ定ム

第十條 政府ハ食糧管理上必要アリト認ムルトキハ主要食糧ノ輸入若ハ移入ヲ目的トスル買入又ハ輸出若ハ移出ヲ目的トスル賣渡ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於ケル政府ノ買入又ハ賣渡ノ價格ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第十一條 政府ハ必要アリト認ムルトキハ主要食糧ノ買付若ハ交付又ハ貯蔵、交換、加工若ハ製造ヲ爲スコトヲ得

第十二條 第三條ニ掲グル者ハ同條又ハ第四條ノ規定ニ依リ賣渡ノ委

託ヲ爲スヘキ米麥等ニ付朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ検査ヲ受クベシ

前項ニ定ムルモノヲ除クノ外朝鮮總督ハ必要アリト認ムルトキハ主

要食糧ニ付検査ヲ受クベキコトヲ命ズルコトヲ得

第十三條 朝鮮總督ハ時ニ必要アリト認ムルトキハ其ノ定ムル所ニ依リ主要食糧ノ販賣ヲ業トスル者又ハ其ノ團體ニ對シ主要食糧ノ供給ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十四條 精米又ハ糠麥ノ設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲サントスル者ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ許可ヲ受クベシ

第十五條 朝鮮總督ハ時ニ必要アリト認ムルトキハ其ノ定ムル所ニ依リ主要食糧ノ價格、加工費又ハ製造ノ料金ニ關シ必要ナル命令ヲ爲

スコトヲ得

朝鮮總督府

第十六條 主要食糧ヲ輸入又ハ移入シタル者ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ輸入又ハ移入シタル主要食糧ヲ政府ニ賣渡スベシ
前項ノ場合ニ於ケル政府ノ買入ノ價格ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第十七條 朝鮮總督ハ特ニ必要アリト認ムルトキハ本令ニ定ムルモノヲ除クノ外朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ主要食糧ノ加工、製造、讓渡其ノ他ノ處分、使用、消費及移動ニ關シ必要ナル制限ヲ爲スコトヲ得

第十八條 主要食糧ノ生産費、生産高、現在高及移動ノ調査、家計費ノ調査其ノ他主要食糧ノ管理ヲ行フ爲必要ナル調査ニ關シ必要ナル事項ハ朝鮮總督之ヲ定ム

朝鮮總督ハ其ノ定ムル所ニ依リ前項ノ調査ヲ行フ爲必要ナル報告ヲ徵シ又ハ當該官吏若ハ吏員ヲシテ必要ナル場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

第十九條 朝鮮食糧營團ハ朝鮮總督ノ定ムル食糧配給計畫（各道内ニ於ケル地方的食糧配給ニ關シ通知事ノ定ムル配給計畫ヲ含ム）ニ基キ主要食糧ヲ配給スルト共ニ朝鮮總督ノ指定スル食糧ヲ貯藏スルハ必要ナル事業ヲ行フコトヲ目的トス

朝鮮食糧營團ハ法人トス

第二十條 朝鮮食糧營團ハ主タル事務所ヲ京城府ニ置ク

朝鮮食糧營團ハ各道毎ニ從タル事務所トシテ支部ヲ設置ス

前項ニ定ムルモノノ外朝鮮食糧管團ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ必要ノ
地ニ從ヘル事務所ヲ設置スルコトヲ得

第二十一條 朝鮮食糧管團ノ資本ハ三千萬圓トシ之ヲ六十萬口ニ分チ
一口ノ出資金額ヲ五十圓トス但シ資本ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ之ヲ
増加スルコトヲ得

政府ハ千萬圓ヲ限リ朝鮮食糧管團ニ出資ス

前項ノ出資ハ國債證券ヲ交付シテ之ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ交付スル國債證券ノ交付價格ハ政府ノ定ムル所ニ
依ル

第二十二條 朝鮮食糧管團ハ定款ヲ以テ出資者ノ資格ヲ制限スルコト

ヲ得

第二十三條 朝鮮食糧管團ニ非サル者ハ朝鮮食糧管團又ハ類似ノ名稱
ヲ用フルコトヲ得ズ

第二十四條 朝鮮食糧管團ハ出資ニ對シ出資證券ヲ發行ス

出資證券ニシ必要ナル事項ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第二十五條 朝鮮食糧管團ノ出資者ノ責任ハ其ノ出資額ヲ限度トス

出資者ハ朝鮮食糧管團ニ拂込ムベキ出資額ニ付相殺ヲ以テ之ニ對抗
スルコトヲ得ズ

第二十六條 出資者ハ朝鮮食糧管團ノ承認ヲ經テ其ノ持分ヲ讓渡スコ
トヲ得

朝鮮
食糧
總督
府

第二十七條 拂込ヲ怠リタル出資者ニ對シ朝鮮食糧營團が一月以上ノ相當ノ期間ヲ定メ拂込ノ請求ヲ爲シタルニ同ラズ出資者ガ拂込ヲ爲ササルトキハ朝鮮食糧營團ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ其ノ出資者ノ持分ヲ處分スルコトヲ得

朝鮮食糧營團ハ持分ノ處分ニ依リテ得ル金額ヨリ滯納金額及定款ヲ以テ定メタル違約金ノ額ヲ控除シタル金額ヲ従前ノ出資者ニ拂戻スコトヲ要ス

持分ノ處分ニ依リテ存タル金額ガ滯納金額ニ滿タサル場合ニ於テハ朝鮮食糧營團ハ従前ノ出資者ニ對シ不足額ノ辨濟ヲ請求スルコトヲ得

前三項ノ規定ハ朝鮮食糧營團ガ損害賠償及定款ヲ以テ定メタル違約金ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ゲズ

出資者ガ第一項ノ期間内ニ拂込ヲ爲サザルトキハ朝鮮食糧營團ハ其ノ出資者ニ對シ二週間以内ニ出資証券ヲ朝鮮食糧營團ニ提出スベキ旨ヲ通知スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テ提出ナキ出資証券ハ其ノ效力ヲ失フ

前項ノ場合ニ於テハ朝鮮食糧營團ハ遲滞ナク失効シタル出資証券ノ番號竝ニ其ノ出資者ノ氏名及住所ヲ公告スルコトヲ要ス

第二十八條 朝鮮食糧營團ハ本款ヲ以テ左ノ事項ヲ規定スベシ

一 目的

二 名稱

三 事務所ノ所在地

四 資本金額、出資及資産ニ關スル事項

五 役員及會議ニ關スル事項

六 業務及其ノ執行ニ關スル事項

七 朝鮮食糧債券ノ發行ニ關スル事項

八 會計ニ關スル事項

九 公告ノ方法

定款ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ之ヲ變更スルコトヲ得

第二十九條 朝鮮食糧管理會ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ登記ヲ爲スコ

トヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ登記スベキ事項ハ登記ノ後ニ非ザレバ之ヲ以テ第

三者ニ對抗スルコトヲ得

第三十條 朝鮮食糧管理會ノ解散及清算ニ關シ必要ナル事項ハ別ニ之ヲ

定ム

第三十一條 朝鮮民事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル民法第四十四條、

第五十條、第五十四條、第五十五條及第五十七條ハニ非訟事件手續

法第三十五條第一項ノ規定ハ朝鮮食糧管理會ニ之ヲ準用ス

第三十二條 朝鮮食糧管理會ニ理事長副理事長各一人、理事十五人以上

及監事二人以上ヲ置ク

第三十三條 理事長ハ朝鮮食糧營團ヲ代表シ其ノ業務ヲ經理ス

副理事長ハ理事長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ理事長缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ

副理事長及理事ハ理事長ヲ輔佐シ定款ノ定ムル所ニ依リ朝鮮食糧營團ノ業務ヲ分掌シ又ハ之ニ參與ス

監事ハ朝鮮食糧營團ノ業務ヲ監査ス

第三十四條 理事長、副理事長、理事及監事ハ朝鮮總督之ヲ命ズ

理事長及副理事長、任期ハ五年、理事、任期ハ四年、監事ノ任期ハ二年、ス

第三十五條 理事長、副理事長及業務ヲ分掌スル理事ハ他ノ職務ニ從

事スルコトヲ得ズ但シ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三十六條 朝鮮食糧營團ニ評議員若干人ヲ置キ朝鮮總督之ヲ命ズ

評議員ハ事業經營ニ關スル重要事項ニ付理事長ノ諮問ニ應ジ必要アルトキハ之ニ對シ意見ヲ述ブルコトヲ得

評議員ハ各譽職、シ其ノ任期ハ二年トス

第三十七條 朝鮮食糧營團ハ左ノ事業ヲ行フモノトス

- 一 政府ニ對スル主要食糧ノ賣渡ノ受託
- 二 主要食糧ノ買入及賣渡
- 三 朝鮮總督ノ指定スル食糧ノ貯蔵

四 朝鮮總督ノ指定スル主要食糧ノ加工及製造

五 前各號ノ事業ニ附帶スル事業

六 前各號ノ外朝鮮食糧營團ノ目的達成上必要ナル事業

朝鮮食糧營團前項第五號又ハ第六號ノ事業ヲ行ハントスルニキハ朝鮮總督ノ認可ヲ受クベシ

朝鮮食糧營團ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ事業ノ全部又ハ一部ヲ廢止又ハ休止スルコトヲ得ズ

第三十八條 朝鮮總督ハ朝鮮食糧營團ニ對シ主要食糧ノ配給上必要ナル事業ヲ行フベキコトヲ命ジ其ノ能率高ニ圖シ公益上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第三十九條 朝鮮食糧營團ハ販賣ノ目的ヲ以テ買入ルル者ニ主要食糧

ヲ買渡ストキハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ認可ヲ受ケ當該主要食糧ノ販賣ニ關シ必要ナル事項ヲ指示スルコトヲ得

朝鮮總督ハ主要食糧ノ配給上特ニ必要アリト認ムルトキハ前項ノ者ニ對シ同項ノ指示ニ從フベキコトヲ命ズルコトヲ得

第四十條 朝鮮食糧營團ハ拂込資本金額ノ五倍ヲ限り朝鮮食糧債券ヲ發行スルコトヲ得

第四十一條 朝鮮食糧債券ハ額面金額五十圓以上トシ無記名式利札付トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名式ト爲スコトヲ得

第四十二條 朝鮮食糧營團ハ朝鮮食糧債券借換ノ爲一時第四十條ノ制

朝鮮食糧營團

朝鮮總督府

限ニ依ラズ朝鮮食糧債券ヲ發行スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ朝鮮食糧債券ヲ發行シタルトキハ發行後一月以内
ニ於テ發行額面金額ニ相當スル舊朝鮮食糧債券ヲ償還スベシ

第四十三條 朝鮮食糧發團ニ於テ朝鮮食糧債券ヲ發行セントスルトキ
ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受クベシ

第四十四條 朝鮮食糧債券ノ消滅時效ハ元金ニ在リテハ十五年、利子
ニ在リテハ五年ヲ以テ完成ス

第四十五條 朝鮮食糧債券ノ所有者ハ朝鮮食糧發團ノ財産ニ付他ノ債
權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス

前項ノ規定ハ朝鮮民事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル民法ノ一般ノ先

取特權ノ行使ヲ妨グルコトナシ

第四十六條 朝鮮所得稅令及朝鮮資本利子稅令中國債以外ノ公債ニ關
スル規定ハ朝鮮食糧債券ニ之ヲ準用ス

第四十七條 第四十一條乃至前條ニ規定スルモノヲ除クノ外朝鮮食糧債
券ニ關シテ必要ナル事項ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第四十八條 朝鮮食糧發團ノ事業年度ハ毎年四月ヨリ翌年三月迄トス

第四十九條 朝鮮食糧發團ハ設立ノ時及毎事業年度ノ初ニ於テ財産目
録、貸借對照表及損益計算書ヲ作成シ定款ト共ニ之ヲ各事務所ニ備
置クコトヲ要ス

第五十條 剩餘金ノ處分ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效

朝鮮食糧發團
總務部
庶務課

朝鮮總督府

力ヲ生ゼズ

第五十一條 朝鮮食糧營團ハ其ノ資本金額ノ四分ノ一ニ達スル迄ハ每
事業年度ニ於テ準備金トシテ剩餘金ノ百分ノ八以上ヲ積立ツベシ
前項ノ準備金ハ朝鮮總督ノ定ムル場合ヲ除クノ外之ヲ使用スルコト
ヲ得ズ

第五十二條 朝鮮食糧營團ハ拂込ミタル出資金額ニ對シ朝鮮總督ノ定
ムル割合ヲ超エテ剩餘金ノ配當ヲ爲スコトヲ得ズ

朝鮮食糧營團ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ政府ノ出資ニ對シ剩餘金ノ配
當ヲ減額シ又ハ之ヲ爲サザルコトヲ得

第五十三條 朝鮮食糧營團ハ朝鮮總督之ヲ監督シ其ノ支部ノ業務ニ關

シテハ道知事モ亦之ヲ監督ス

第五十四條 朝鮮總督ハ朝鮮食糧營團ニ對シ業務及財産ノ狀況ニ關シ
報告ヲ爲シシメ、檢査ヲ爲シ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ
處分ヲ爲スコトヲ得

道知事ハ朝鮮食糧營團ノ支部ノ業務ニ關シ報告ヲ爲シシメ其ノ他必
要ナル指示ヲ爲スコトヲ得

第五十五條 朝鮮總督ハ朝鮮食糧營團監理官ヲ置キ朝鮮食糧營團ノ業
務ヲ監視セシム

朝鮮食糧營團監理官ハ何時ニテモ朝鮮食糧營團ノ業務及財産ノ狀況
ヲ檢査スルコトヲ得

朝鮮食糧營團
監理官

朝鮮食糧管理監督官ハ必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ朝鮮食糧

管理ニ命ジ業務及財産ノ状況ヲ報告セシムルコトヲ得

朝鮮食糧管理監督官ハ朝鮮食糧管理監督ノ諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳

述スルコトヲ得

第五十六條 理事長、副理事長、理事又ハ監事ガ法令、法令ニ基キテ

爲ス處分若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ

朝鮮總督ハ之ヲ解任スルコトヲ得

第五十七條 朝鮮總督ハ其ノ定ムル所ニ依リ本令ニ規定スル職權ノ一

部ヲ道知事ニ委任スルコトヲ得

第五十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ一萬圓

以下ノ罰金ニ處ス

一 第三條（第九條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）、第四條又

ハ第十六條第一項ノ規定ニ違反シタル者

二 第七條（第九條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）、第十三條

又ハ第十五條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

第五十九條 前條ノ非ヲ犯シタル者ニハ情狀ニ因リ懲役及罰金ヲ併科

スルコトヲ得

第六十條 第十七條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ一年以下ノ懲

役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

朝鮮食糧管理監督官

一 第十條ノ規定ニ違反シタル者

二 第三十九條第二項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

第六十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 不正ノ手段ニ依リ第十二條ノ規定ニ依ル検査ヲ受ケ又ハ受ケン

トシタル者

二 第十二條第二項ノ規定ニ依ル検査ヲ受ケザル者

三 第十八條第二項ノ規定ニ依ル報告ヲ怠リ又ハ虚偽ノ報告ヲ爲シ

タル者

第六十三條 第十八條第二項ノ規定ニ依ル當該官吏又ハ吏員ノ検査ヲ

拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十四條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ

従業者其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ第五十八條又ハ第六十條乃至第

六十二條ノ違反行爲ヲ爲ノタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人

又ハ人ニ對シ各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第六十五條 朝鮮食糧管理ノ理事長、副理事長、理事、監事又ハ使用

人其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求シ若ハ約束シタルトキ

ハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲

シ又ハ相害ノ行爲ヲ爲サザルトキハ三年以下ノ懲役又ハ五千圓以下

ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ没収ス若シ其ノ一部又ハ一

朝鮮食糧管理
朝鮮食糧管理
朝鮮食糧管理
朝鮮食糧管理

部ヲ殺致スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第六十六條 前條第一項ニ掲グル者ニシテ賄賂ヲ交付ノ又ハ之ヲ提供
シ若ハ約束ノタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ輕又ハ免除スル
コトヲ得

第六十七條 朝鮮食糧營々本令若ハ本令ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ
基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ理事長又ハ理事長ノ職務ヲ行ヒ
若ハ代理スル副理事長若ハ理事ヲ五千圓以下ノ過料ニ處ス副理事長
又ハ理事ノ分掌業務ニ係ルトキハ理事長又ハ理事ヲ過料ニ處スル
コト亦同シ

第六十八條 朝鮮食糧營團ノ理事長、副理事長又ハ業務ヲ分掌スル理
事第三十五條ノ規定ニ違反シ他ノ職業ニ從事シタルトキハ千圓以下
ノ過料ニ處ス

第六十九條 第二十三條ノ規定ニ違反シ朝鮮食糧營團又ハ類似ノ名稱
ヲ用ヒタル者ハ千圓以下ノ過料ニ處ス

罰則

第七十條 本令施行ノ期日ハ各規定ニ付朝鮮總督之ヲ定ム

第七十一條 左ニ掲グル制令ハ之ヲ廢止ス

一 朝鮮穀物検査令

二 朝鮮米穀市場株式會社令

三 朝鮮米穀配給調整令

前項ニ掲グル制令廢止前當該制令ノ罰則ヲ適用スベカリシ行爲ニ付
テハ仍從前ノ例ニ依ル

第一項ニ掲グル制令ノ廢止ニ關シ必要ナル規定ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第七十二條 朝鮮總督ハ設立委員ヲ命ジ朝鮮食糧營團ノ設立ニ關スル
事務ヲ處理セシム

第七十三條 設立委員ハ定款ヲ作成シ朝鮮總督ノ認可ヲ受クベシ
朝鮮總督ハ前項ノ認可ヲ爲シタルトキハ第三十七條第一項ニ掲グル
事業ト同種ノ事業ヲ行フ株式會社ニソア朝鮮總督ノ指定スルモノ及
朝鮮米穀市場株式會社ニ對シテノ解散ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ命令ヲ受ケタル株式會社ハ朝鮮食糧營團成立ノ時解散スルモ
ノトシ其ノ權利義務ハ朝鮮食糧營團之ヲ承継ス此ノ場合ニ於テハ他
ノ法令中解散及清算ニ關スル規定ハ之ヲ其ノ株式會社ニ適用セズ

第七十四條 前條第一項ノ認可アリタルトキハ設立委員ハ朝鮮總督ノ
定ムル所ニ依リ同條第二項ノ命令ニ係ル株式會社ノ株式ニシテ朝鮮
米穀市場株式會社以外ノ者ノ所有ニ係ルモノニ朝鮮食糧營團ノ出資
ヲ引當ツベシ

設立委員ハ政府ノ引受ケタル出資及前項ノ規定ニ依リ引當テタル出
資ヲ控除シタル殘餘ノ出資ニ付
出資者ヲ募集スベシ

第七十五條 設立委員ハ出資者ノ募集ヲ終リタルトキハ出資申込書ヲ

朝鮮總督ニ提出シ其ノ検査ヲ受クベシ

設立委員ハ前項ノ検査ヲ受ケタル後出資第一回ノ拂込ヲ爲サシムベシ

出資第一回ノ拂込完了シタルトキハ出資者ノ總會ヲ招集スベシ

前項ノ總會終結シタルトキハ設立委員ハ其ノ事務ヲ朝鮮食糧營團理事長ニ引渡スベシ

理事長前項ノ事務ノ引渡ヲ受ケタルトキハ理事長、副理事長、理事及監事ノ全員ハ主タル事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スベシ

朝鮮食糧營團ハ設立ノ登記ヲ爲スニ因リテ成立ス

第七十六條 本令ニ規定スルモノヲ除クノ外朝鮮食糧營團ノ設立及第

七十三條第二項ノ命令ニ係ル株式会社ノ解散ニ關シ必要ナル事項ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第七十七條 朝鮮登録規令中左ノ通改正ス

第三條ノ三第一項中「朝鮮農地開發營團」ノ下ニ「又ハ朝鮮食糧營

團」ヲ、「朝鮮農地開發債券」ノ下ニ「又ハ朝鮮食糧債券」ヲ加フ

第四條ノ六ヲ削リ第四條ノ七ヲ第四條ノ六トシ第四條ノ八ヲ第四條

ノ七トス

第七條第七號中「朝鮮農地開發營團、」ノ下ニ「朝鮮食糧營團、」

ヲ、「朝鮮農地開發營團令、」ノ下ニ「朝鮮食糧管理令、」ヲ、「朝

鮮農地開發債券」ノ下ニ「朝鮮食糧債券」ヲ加ヘ「朝鮮農地開發

朝鮮
金融
組合
聯合
會令
朝鮮
農地
開發
營團
令
朝鮮
食糧
管理
令
朝鮮
食糧
債券
令

營團令又ハ朝鮮金融組合聯合會令」ヲ「朝鮮農地開發營團令、朝鮮食糧管理令又ハ朝鮮金融組合聯合會令」ニ改ム

第七十八條 印紙稅令中左ノ通改正ス

第一條第二項但書中「朝鮮農地開發營團、」ノ下ニ「食糧營團債券トアルハ朝鮮食糧債券、」ヲ加フ

第七十九條 第二十三條ノ規定施行ノ際現ニ朝鮮食糧營團又ハ類似ノ名稱ヲ使用スル者ハ同條ノ規定施行後六月以内ニ其ノ名稱ヲ變更スルコトヲ要ス

第六十九條ノ規定ハ前項ノ期間内之ヲ同項ノ者ニ適用セズ

理由

朝鮮ニ於ケル食糧事情ニ鑑ミ主要食糧ノ需給及價格ヲ調整シ且其ノ配給ヲ圓滑ナラシメ併セテ非常用食糧ノ貯藏ニ遺憾ナキヲ期スル爲食糧管理ノ制度ヲ整備強化スルト共ニ新ニ朝鮮食糧營團ヲ設置シ以テ國民食糧ノ確保及國民經濟ノ安定ヲ圖ルノ要アルニ依ル

朝鮮食糧管理令

參照目次

民法

第四十四條、第五十條及第五十四條乃至第五十七條

非訟事件手續法

第三十五條

朝鮮穀物検査令

朝鮮米穀市場株式會社令

朝鮮米穀配給調整令

朝鮮登録稅令

第三條ノ三、第四條ノ六、第四條ノ七及第七條

朝鮮電力管理令

第六十七條（登録稅令第四條ノ八ノ改正規定、但シ未施行）

印紙稅令

食糧管理法朝鮮施行令

食糧管理法

食糧管理法施行令

臺灣米穀管理令

參照

民法

明治三十九年四月二十一日
法律第六十九号

(國務大臣)
副署

第四十四條 法人ハ理事其他ノ代理人カ其職務ヲ行フニ付キ他人ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス

法人ノ目的ノ範圍内ニ在ラサル行爲ニ因リテ他人ニ損害ヲ加ヘタルトキハ其事項ノ議決ヲ贊成シタル社員、理事及ヒ之ヲ履行シタル理事其他ノ代理人連帶シテ其賠償ノ責ニ任ス

第五十條 法人ノ住所ハ其主タル事務所ノ所在地ニ在ルモノトス

第五十四條 理事ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五十五條 理事ハ定款、寄附行爲又ハ總會ノ決議ニ依リテ禁止セラレサルトキニ限り特定ノ行爲ノ代理ヲ他人ニ委任スルコトヲ得

第五十七條 法人ト理事トノ利益相反スル事項ニ付テハ理事ハ代理權ヲ有セス此場合ニ於テハ前條ノ規定ニ依リ特別代理人ヲ選任スルコトヲ要ス

第五十六條 理事ノ缺ケタル場合ニ於テ選任ノ爲メ損害ヲ生スル虞アルトキハ裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ假理事ヲ選任ス

參照

●非訟事件手續法

明治三十一年六月二十一日
法律第十四號

改正 明治三十二年五月一號、四十四年第七四號

大正二年第一九號、一一年第六三號、第七一號、一五年第六七號

昭和二年第三三號、四年第六〇號、六年第四二號、九年第三三號、一四年第七九號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル非訟事件手續法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

(總理、司法
大臣副署)

第三十五條 假理事又ハ特別代理人ノ選任ハ法人ノ主タル事務所所在地ノ

區裁判所ノ管轄トス

法人ノ解散及ヒ清算ノ監督ハ其主タル事務所所在地ノ區裁判所ノ管轄ト

ス

日本標準規格用紙(十一行)(山形納)

朝鮮穀物検査令

昭和七年九月

朝鮮穀物検査令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅諭ヲ得テ茲ニ之ヲ公布ス

朝鮮穀物検査令

第一條 朝鮮總督ノ指定スル地ヨリ又ハ指定スル地ヲ經テ穀物ヲ搬出セントスル者ハ其ノ穀物ノ品質、乾燥、調製、容量又ハ重量及包裝ニ付朝鮮總督府穀物検査所ノ検査ヲ受クベシ

第二條

前條第二項ニ規定スル穀物ハ同條第一項ノ検査ニ合格タルモノニ非ザレバ之ヲ輸出又ハ移出スルコトヲ得ズ

第三條

本令ニ規定スルモノノ外検査ノ方法其ノ他検査ニ關シ必要ナル事項ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第四條

當該官吏ハ第一條第二項ニ規定スル穀物ノ取引業者、倉庫業者、所有者其ノ他占有者ニ對シ検査ニ關シ必要ナル事項ノ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第五條

當該官吏取締上必要アリト認ムルトキハ店舗、倉庫其ノ他ノ場所ニ臨檢シ穀物、帳簿其ノ他ノ物件ノ検査ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ證據ヲ携帶スベシ

第六條

本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反スト認ムルトキハ當該官吏ハ第一條第二項ニ規定スル穀物ノ取引業者、倉庫業者、所有者其ノ他占有者ニ對シ穀物ノ運搬停止又ハ積戻ヲ命ジ其ノ他必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第七條

左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條

前條ノ規定ニ依リ報告ヲ爲サズ又ハ虛偽ノ報告ヲ爲シタル者

第九條

當該官吏ノ臨檢検査ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ其ノ時間ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者

第十條

第一條第二項ニ規定スル穀物ノ取引業者、倉庫業者、所有者其ノ他占有者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ本令若ハ本令ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ自己ノ指押ニ出テザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第十一條

本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ依リ罰則ヲ適用スベキ者法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

附則

本令施行ノ期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム(昭和七年九月十日)

日本標準規格圖例(十一行イ)(山田納)

參照

朝興米穀市場株式會社令

日本標準規格附列(十一行令)(山田納)

内閣

朝鮮米穀市場株式會社令明治四十四年法律
第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ
茲ニ之ヲ公布ス

昭和十四年九月二十二日

朝鮮總督 南 次郎

制令第十五號(官報十月四日)

朝鮮米穀市場株式會社令

第一條 朝鮮米穀市場株式會社ハ米穀ノ配
給ノ統制ヲ圖ル爲朝鮮ニ於テ米穀市場ノ
經營等ヲ爲スコトヲ目的トスル株式會社
トシ其ノ本店ヲ京城府ニ置ク

第二條 朝鮮米穀市場株式會社ノ資本ハ五
百萬圓トス但シ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ之
ヲ增加スルコトヲ得

第三條 朝鮮米穀市場株式會社ノ株式ハ記
名式トシ政府、公共團體、帝國臣民又ハ帝
國法人ニシテ社員、株主若ハ業務ヲ執行ス
ル役員ノ半數以上又ハ資本ノ半額以上若
ハ議決權ノ過半數ガ外國人又ハ外國法人
ニ屬セザルモノニ限リ之ヲ所有スルコト
ヲ得

第四條 政府所有ノ株式ノ株金拂込ハ其ノ
他ノ株式ノ株金拂込ト之ヲ異ニスルコト
ヲ得

第五條 朝鮮米穀市場株式會社ニ非ザルモ
ノハ朝鮮米穀市場株式會社又ハ之ニ類似
ノ名稱ヲ以テ其ノ商號ト爲スコトヲ得ズ

第六條 朝鮮米穀市場株式會社ニ役員トシ
テ社長專務理事各一人、理事五人以上及
監事二人以上ヲ置ク

第七條 朝鮮米穀市場株式會社ヲ代表シ其
ノ業務ヲ總理ス

專務理事ハ社長專務理事アルトキハ其ノ職務
ヲ代理シ社長缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行
フ

專務理事及理事ハ社長ヲ輔佐シ定款ノ定
ムル所ニ依リ朝鮮米穀市場株式會社ノ業
務ヲ分掌シ又ハ之ニ參與ス

監事ハ朝鮮米穀市場株式會社ノ業務ヲ監
查ス

第七條 社長及專務理事ハ朝鮮總督之ヲ命
ジ其ノ任期ヲ五年トス

理事ハ株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選
任シ朝鮮總督ノ認可ヲ受クルモノトシ其
ノ任期ヲ四年トス

監事ハ株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選
任シ其ノ任期ヲ二年トス

第八條 社長、專務理事及業務ヲ分掌スル
理事ハ他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコト

ヲ得ズ但シ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケタルト
キハ此ノ限ニ在ラス

第九條 朝鮮米穀市場株式會社ノ役員又ハ
使用人ハ朝鮮總督ノ定ムル場合ヲ除クノ
外何人ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ米穀市
場ノ賣買取引ヲ爲シ又ハ其ノ委託ヲ爲ス
コトヲ得ズ

朝鮮米穀市場株式會社ノ役員又ハ使用人
ハ市場員トノ間ニ資金ノ供與、損益ノ分
配其ノ他市場員ノ業務ニ付特別ノ利害關
係ヲ有スルコトヲ得ズ

第十條 朝鮮米穀市場株式會社ハ左ノ事業
ヲ營ムモノトス

一 米穀市場ノ經營

二 前號ノ事業ニ附帶スル事業

三 其ノ他本會社ノ目的達成上必要ナル
事業

朝鮮米穀市場株式會社ハ朝鮮總督ノ定ム
ル所ニ依リ其ノ認可ヲ受ケ米穀市場ニ於
テ雜穀ノ賣買取引ヲモ取扱フコトヲ得

朝鮮米穀市場株式會社第一項第二號又ハ
第三號ノ事業ヲ營マントスルトキハ朝鮮
總督ノ認可ヲ受クベシ

第十一條 朝鮮米穀市場株式會社米穀市場
ヲ經營セントスルトキハ朝鮮總督ノ定ム

昭和十四年九月 制令 第十五號 朝鮮米穀市場株式會社令

日本經濟規程(十一行)(山)

ル所ニ依リ市場毎ニ朝鮮總督ノ認可ヲ受クベシ

第十二條 朝鮮米穀市場株式會社事業ノ全部若ハ一部ヲ廢止シ又ハ休止セントスルトキハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ認可ヲ受クベシ

第十三條 米穀市場ハ朝鮮米穀市場株式會社ニ限リ之ヲ經營スルコトヲ得

第十四條 米穀市場ノ賣買取引ノ價格ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ指定スル最低價格ヲ下リ又ハ最高價格ヲ超ユルコトヲ得ズ

第十五條 米穀市場ノ賣買取引ハ差金ノ授受ニ依リ其ノ決済ヲ爲スコトヲ得ズ但シ履行期ニ於ケル決済ニシテ朝鮮總督ノ定ムルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十六條 朝鮮米穀市場株式會社ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ米穀市場ノ賣買取引ニ付證據金ヲ納メシメ又ハ手數料ヲ徵收スルコトヲ得

但シ朝鮮總督ノ定ムル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

前項但書ノ場合ニ於ケル米穀ノ賣買取引ニ關シ必要ナル事項ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第二十四條 市場員ハ委託ヲ受ケタル米穀市場ノ賣買取引ニ付米穀市場ニ於テ其ノ賣付、買付又ハ受渡ヲ爲サズシテ之ヲ爲シタルト同一又ハ類似ノ計算ヲ以テ委託者ニ對シ其ノ決済ヲ爲スコトヲ得ズ

前項ノ規定ニ違反シタル市場員ハ朝鮮米穀市場株式會社定款ノ定ムル所ニ依リ之ニ二週間以上業務停止ヲ命ジ又ハ之ヲ除名スベシ

第二十五條 市場員ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ朝鮮米穀市場株式會社ニ身元保證金ヲ納付スベシ

第二十六條 本令ニ規定スルモノノ外市場員ノ資格其ノ他市場員ニ關シ必要ナル事項ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第二十七條 朝鮮米穀市場株式會社ハ米穀市場ノ秩序ヲ保持スル爲メ定款ノ定ムル所ニ依リ市場員ニ千圓以下ノ過怠金ヲ課シ、市場員ノ業務ヲ制限シ若ハ停止シ又ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ市場員ヲ除名スルコトヲ得

第十七條 本令ニ規定スルモノノ外米穀市場ノ賣買取引ノ方法其ノ他賣買取引ニ關シ必要ナル事項ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第十八條 米穀市場ノ賣買取引ハ其ノ市場ノ市場員ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得但シ朝鮮總督ノ定ムル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

第十九條 市場員タルントスル者ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ免許ヲ受クベシ

第二十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ前條ノ免許ヲ受クルコトヲ得ズ但シ朝鮮總督ノ定ムル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

一 帝國臣民又ハ帝國法人ニ非ザル者

二 破産者ニシテ復權ヲ得ザルモノ

三 禁錮以上ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル後三年ヲ經過スルニ至ル迄ノ者

四 米穀市場ノ市場員ニシテ除名セラレ除名ノ日ヨリ三年ヲ經過セザルモノ

五 第三十二條又ハ第三十三條ノ規定ニ依リ免許ヲ取消サレ取消ノ日ヨリ三年ヲ經過セザル者

六 營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有セザル未成年者又ハ禁治產者ニシテ其

第二十八條 朝鮮米穀市場株式會社ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ米穀市場ノ賣買取引ノ違約ヨリ生ズル損害ニ付賠償ノ責ニ任ズルコトヲ得

朝鮮米穀市場株式會社前項ノ規定ニ依リ損害ヲ賠償シタルトキハ違約者ニ對シ其ノ賠償シタル金額及之ニ要シタル費用ニ付求償權ヲ有ス

第二十九條 朝鮮米穀市場株式會社ハ證據金及身元保證金ニ付他ノ債權者ニ對シ優先權ヲ有ス

市場員ニ對シ米穀市場ノ賣買取引ノ委託ヲ爲シタル者ハ委託契約ニ基キテ生ズル債權ニ關シ其ノ市場員ノ身元保證金ニ付他ノ債權者ニ對シ優先權ヲ有ス

第三十條 朝鮮總督ハ市場員ニ對シ米穀市場ノ賣買取引ニ關シ米穀ノ配給統制上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第三十一條 朝鮮總督必要ト認ムルトキハ何時ニテモ市場員ニ對シ業務ニ關スル諸般ノ報告ヲ命ジ又ハ部下ノ官吏ヲシテ市場員ノ帳簿物件ヲ検査セシムルコトヲ得

ノ法定代理人方前各號ノ一ニ該當スルモノ

七 法人ニシテ其ノ業務ヲ執行スル役員中第一號乃至第五號ノ一ニ該當スル者アルモノ

第二十一條 市場員前條第一號乃至第四號、第六號若ハ第七號ニ該當スルニ至リタルトキ又ハ朝鮮米穀市場株式會社ノ役員若ハ使用人ト爲リタルトキハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ免許ハ其ノ效力ヲ失フ

第二十二條 市場員ハ業務ヲ廢止シタル後ト雖モ米穀市場ノ賣買取引ノ結了及監督ノ目的ノ範圍内ニ於テハ取引結了後二週間ヲ經過スル迄仍業務ヲ廢止セザルモノト看做ス

市場員死亡シ若ハ解散シ又ハ其ノ免許ヲ取消サレ若ハ效力ヲ失ヒタル場合ニ於テハ米穀市場ノ賣買取引ノ結了ニ至ル迄亦前項ニ同ジ

前二項ノ場合ニ於テ市場員ノ行爲ヲ爲ス者ナキトキハ朝鮮米穀市場株式會社ハ定款ノ定ムル所ニ依リ他人ヲシテ其ノ行爲ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十三條 市場員ハ其ノ米穀市場ニ依ラズシテ米穀ノ賣買取引ヲ爲スコトヲ得ズ

第三十二條 朝鮮總督ハ不正ノ手段ニ依リ第十九條ノ免許ヲ受ケタル者アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第三十三條 朝鮮總督ハ市場員ノ行爲ガ本令若ハ本令ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ其ノ業務ヲ制限シ若ハ停止シ又ハ其ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第三十四條 朝鮮總督ハ朝鮮米穀市場株式會社ノ業務ヲ監督ス

第三十五條 定款ノ變更、利益金ノ處分、社債ノ募集、合併及解散ノ決議ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第三十六條 朝鮮總督ハ朝鮮米穀市場株式會社ニ對シ米穀ノ配給統制上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第三十七條 朝鮮總督ハ朝鮮米穀市場株式會社ノ業務ニ關シ監督上必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第三十八條 朝鮮總督ハ朝鮮米穀市場株式會社ノ業務ヲ監視セシム

朝鮮米穀市場株式會社監理官ハ何時ニテモ朝鮮米穀市場株式會社ノ金庫、帳簿及諸般ノ文書物件ヲ検査スルコトヲ得

朝鮮米穀市場株式會社監理官必要ト認ムルトキハ何時ニテモ朝鮮米穀市場株式會社ニ命ジ業務ニ關スル諸般ノ計算及狀況ヲ報告セシムルコトヲ得

朝鮮米穀市場株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第三十九條 朝鮮總督ハ朝鮮米穀市場株式會社ノ決議又ハ役員ノ行為ヲ法令、法令ニ基キテ爲ス處分若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ決議ヲ取消、役員ノ解任又ハ事業ノ停止若ハ禁止ヲ爲スコトヲ得

第四十條 朝鮮米穀市場株式會社ハ每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ヲ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ニ達スル迄政府ノ所有スル株式ニ對シ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ要セス

朝鮮米穀市場株式會社ノ每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ヲ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ニ達スル迄政府ノ所有スル株式ニ對シ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ要セス

第四十九條 米穀市場ニ於ケル相場ノ變動ヲ圖ル目的ヲ以テ虚偽ノ風説ヲ流布シ、偽計ヲ用ヒ又ハ暴行若ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 米穀市場ニ於ケル相場ヲ偽リテ公示シタル者

二 公示若ハ頒布ノ目的ヲ以テ虚偽ノ相場ヲ記載シタル文書ヲ作成シ又ハ之ヲ頒布シタル者

第五十一條 米穀市場ニ依ラズシテ米穀市場ノ相場ニ依リ差金ノ授受ヲ目的トスル行為ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス但シ朝鮮刑事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル刑法第百八十六條ノ規定ノ適用ヲ妨ゲズ

第五十二條 市場員ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ第四十五條ノ違反行為ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超過スル場合ニ於テ政府以外ノ者ノ所有スル株式ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超エ利益配當ヲ爲サントスルトキハ其ノ超過スル利益金額ハ利益配當方總株式ニ付拂込ミタル株金額ニ對シ均一ノ割合ニ達スル迄政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額及政府ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ一ト四トノ割合ヲ以テ之ヲ配當スベシ

第四十一條 第五條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十二條 第九條第一項ノ規定ニ違反シタル者又ハ同條第二項ノ規定ニ違反シタル者トノ間ニ特別ノ利害關係ヲ生ズルコトヲ目的トスル行為ヲ爲シタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條 第十三條第二項ノ規定ニ違反シ米穀市場ニ類似ノ施設ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十四條 第十三條第二項ノ規定ニ違反シ米穀市場ニ類似ノ施設ニ依リ米穀ノ賣

第五十三條 第四十五條ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第五十四條 朝鮮米穀市場株式會社左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ社長又ハ社長ノ職務ヲ行ヒ若ハ代理スル専務理事ヲ五千圓以下ノ過料ニ處ス専務理事又ハ理事ノ分掌業務ニ係ルトキハ専務理事又ハ理事ヲ過料ニ處スルコト亦同ジ

一 本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ依リ認可ヲ受ケベキ場合ニ於テ其ノ認可ヲ受ケザルトキ

二 第十條第一項ノ規定ニ依ラズシテ業務ヲ營ミタルトキ

三 第三十六條又ハ第三十七條ノ規定ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタルトキ

第五十五條 朝鮮米穀市場株式會社ノ社長、専務理事又ハ理事第八條ノ規定ニ違反シタルトキハ千圓以下ノ過料ニ處ス

買取引ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十五條 第三十條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十六條 第三十一條ノ規定ニ依ル検査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十七條 朝鮮米穀市場株式會社ノ役員又ハ使用人米穀市場ノ賣買取引ニ關スル職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求シ若ハ約束シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス四不正ノ行為ヲ爲シ又ハ相當ノ行為ヲ爲サザルトキハ三年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第四十八條 前條第一項ニ掲グル者ニ賄賂ヲ交付シ又ハ之ヲ提供シ若ハ約束シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕シ又ハ免除スルコトヲ得

第五十六條 朝鮮民事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前二條ノ過料ニ之ヲ準用ス

附則

第五十七條 本令施行ノ期日ハ各規定ニ付朝鮮總督之ヲ定ム

第五十八條 朝鮮總督ハ設立委員ヲ命ジ朝鮮米穀市場株式會社ノ設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

設立委員ハ定款ヲ作成シ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケタル後株主ヲ募集スベシ

株式申込證ニハ定款認可ノ年月日並ニ朝鮮民事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル商法第百二十六條第二項第二號、第四號及第五號ニ規定スル事項ヲ記載スベシ

設立委員ハ株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込證ヲ朝鮮總督ニ提出シ其ノ検査ヲ受クベシ

設立委員ハ前項ノ検査ヲ受ケタル後遅滞ナク各株ニ付第一回ノ拂込ヲ爲サシムベシ

前項ノ拂込アリタルトキハ設立委員ハ遲滞ナク創立總會ヲ召集スベシ

創立總會ニ於テハ第七條第二項及第三項ノ規定ニ準ジ理事及監事ノ選任ヲ行フベシ

創立總會終結シタルトキハ設立委員ハ其ノ事務ヲ朝鮮米穀市場株式會社社長ニ引渡スベシ

第五十九條 朝鮮米穀市場株式會社ノ株式ニシテ政府以外ノ者ノ所有スルモノノ第一回拂込金額ハ株金ノ八分ノ一迄下ルコトヲ得

第六十條 朝鮮取引所令ハ米穀ニ關シテハ之ヲ適用セズ

前項ノ規定施行前米穀ノ賣買取引ヲ爲ス取引所ニ於テ爲シタル米穀ノ賣買取引ニ付テハ仍從前ノ例ニ依リ其ノ取引ヲ結了スルコトヲ得

第六十一條 朝鮮米穀市場株式會社ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ認可ヲ受ケ米穀ヲ賣買取引スル取引所又ハ正米市場ノ經營者ガ本令公布ノ際現ニ所有スル土地、建物其ノ他ノ設備ヲ其ノ申込ニ應ジ買取ルモノトス

朝鮮米穀市場株式會社ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ認可ヲ受ケ本令公布ノ際現ニ存スル米穀ヲ賣買取引スル取引所ノ使用人及取引員又ハ會員並ニ正米市場ノ使用人ニシテ前條第一項ノ規定施行ノ日迄引續キ其ノ業務ニ從事スルモノニ關シ必要ナル措置ヲ爲スモノトス

第六十二條 第五條ノ規定施行ノ際現ニ朝鮮米穀市場株式會社又ハ之ニ類似ノ名稱ヲ以テ商號ト爲ス會社ハ同條ノ規定施行後六月以内ニ其ノ商號ヲ變更スルコトヲ要ス

第四十一條ノ規定ハ前項ノ期間内之ヲ前項ノ會社ニ適用セズ

内
閣
訓
令

内
閣
訓
令

朝鮮米穀配給調整令明治四十四年法律第三十號第一條及第三條ニ依リ勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ公布ス
昭和十四年十二月二十七日
朝鮮總督 南 次郎

朝鮮米穀配給調整令

第一章 米穀取扱業者
第一條 米穀ノ買入若ハ賣渡又ハ其ノ代理者ハ媒介ノ業務ヲ行ハントスル者ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ許可ヲ受ケベシ但シ朝鮮總督ノ定ムル者ハ此ノ限ニ在ラス
第二條 前條ノ許可ヲ受ケタル者ノ相續人ニシテ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ朝鮮總督ニ届出デ其ノ業務ヲ承繼シタルモノハ之ヲ同條ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス
第三條 第一條ノ許可ヲ受ケタル者朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ正當ノ事由ナラシテ其ノ業務ヲ開始セザルトキ又ハ業務ヲ休止シタルトキハ朝鮮總督ハ其ノ許可ヲ取消スコトヲ得
第四條 朝鮮總督第一條ノ許可ヲ受ケタル者ノ行為ガ本令若ハ本令ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ其ノ許可ヲ取消シ又ハ其ノ業務ヲ制限シ若ハ停止スルコトヲ得

第五章 朝鮮總督必要ト認ムルトキハ第一條ノ許可ヲ受ケタル者ニ對シ其ノ業務ニ關スル諸般ノ報告ヲ命ジ又ハ部下ノ官吏ヲシテ其ノ帳簿物件ヲ検査セシムルコトヲ得
第二章 米穀配給統制
第六條 朝鮮總督ハ特ニ必要アル場合米穀ノ買入若ハ賣渡又ハ其ノ代理者ハ媒介ヲ爲ス者ニ對シ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ米穀ノ配給統制ニ關スル命令ヲ爲スコトヲ得
第七條 朝鮮總督ハ米穀配給統制上必要ナル事項ヲ調査スル爲メ米穀ノ買入若ハ賣渡又ハ其ノ代理者ハ媒介ヲ爲ス者ニ對シ必要ナル事項ノ報告ヲ命ジ又ハ部下ノ官吏ヲシテ其ノ帳簿物件ヲ検査セシムルコトヲ得
第三章 米穀輸移出組合
第八條 米穀輸移出組合(以下組合ト稱ス)ハ法人トシ米穀ノ輸出及移出ノ調整ヲ行フヲ以テ目的トス
第九條 米穀ノ輸出又ハ移出ハ組合ニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ但シ政府ノ所有スル米穀其ノ他朝鮮總督ノ定ムル米穀ノ輸出又ハ移出ハ此ノ限ニ在ラス
第十條 組合ノ名稱中ニハ米穀輸移出組合ナル文字ヲ用フベシ

本令ニ依リ設立シタル組合ニ非ザレバ其ノ名稱中ニ米穀輸移出組合タルコトヲ示スベキ文字ヲ用フルコトヲ得ス
第十一條 組合ハ左ノ業務ヲ行フモノトス
一 組合員ノ委託ヲ受ケ自己ノ名ヲ以テスル米穀ノ輸出又ハ移出
二 前號ノ業務ニ附帶スル業務
三 組合員ノ業務ニ關スル研究、調査其ノ他組合ノ目的ヲ達スルニ必要ナル施設
設
組合ハ前項第二號又ハ第三號ノ業務ヲ行ハントスルトキハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケベシ
組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ他ノ組合ノ組合員ノ爲ニモ第一項ノ業務ヲ行フコトヲ得
組合ハ特別ノ必要アルトキハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ米穀ノ買入及其ノ處分ヲ爲スコトヲ得
第十二條 組合ノ地區ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依ル
第十三條 組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ組合員ニ對シ經費ヲ分賦シ及過意金ヲ徵收スルコトヲ得
前項ノ經費又ハ過意金ヲ滯納スル者アル場合ニ於テ組合長ノ請求アルトキハ府邑

日本標準規格(特)(十一行)(山田納)

面ハ國稅ノ例ニ依リ之ヲ處分ス此ノ場合ニ於テ組合ハ其ノ徵收金額ノ百分ノ五ヲ府邑面ニ交付スベシ
前項ニ規定スル徵收金ノ先取特權ノ順位ハ府邑面ノ徵收金ニ次ギ其ノ時効ニ付テハ國稅ノ例ニ依ル
經費ノ分賦及過意金ノ徵收ニ關シテハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ異議ノ申立及裁決ノ申請ヲ爲スコトヲ得
第十四條 朝鮮總督ノ定ムル資格ヲ有スル者ハ組合ヲ設立スルコトヲ得
第十五條 組合ヲ設立セントスルトキハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ創立總會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ朝鮮總督ノ認可ヲ受クベシ
組合ハ前項ノ認可アリタル時成立ス
第十六條 組合成立シタルトキハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ登記ヲ爲スベシ
第十七條 組合ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ
一 目的
二 名稱
三 地區
四 事務所ノ所在地
五 組合員タル資格ニ關スル規定
六 組合員ノ加入及脱退ニ關スル規定
七 出資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法
八 剩餘金ノ處分及損失ノ分擔ニ關スル規定
九 準備金ノ額及其ノ積立ノ方法

十 組合員ノ權利義務ニ關スル規定
十一 業務及其ノ執行ニ關スル規定
十二 役員ニ關スル規定
十三 會議ニ關スル規定
十四 會計ニ關スル規定
第十八條 組合ニ對スル組合員ノ出資及其ノ拂込ニ關シ必要ナル事項ハ朝鮮總督之ヲ定ム
第十九條 組合員ノ責任ハ第十三條第一項ノ規定ニ依リ費用分擔ノ外其ノ出資額ヲ限度トス
第二十條 組合員ハ組合ニ拂込ムベキ出資額ニ付相殺ヲ以テ組合ニ對抗スルコトヲ得ズ
第二十一條 組合員ハ組合ノ承諾アルニ非ザレバ其ノ持分ヲ讓渡スコトヲ得ズ
組合員ニ非ザル者持分ヲ讓受ケントスルトキハ加入ノ例ニ依ルベシ
組合員ノ持分ハ質權ノ目的ト爲スコトヲ得ズ
第二十二條 組合員ハ持分ヲ共有スルコトヲ得ズ
第二十三條 死亡又ハ隱居ニ因リ脱退シタル組合員ノ相続人ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ被相続人ノ持分ヲ承繼スルコトヲ得
第二十四條 持分ノ讓受人又ハ前條ノ規定ニ依リ承繼人ハ其ノ持分ニ付讓渡人又ハ被承繼人ノ權利義務ヲ承繼ス
第二十五條 總組合員ノ五分ノ一以上ノ組合員方會議ノ目的タル事項及其ノ招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ提出シテ總會ノ招集ヲ組合長ニ請求シタルトキハ組合長ハ三週間以内ニ總會ヲ招集スルコトヲ要ス
組合長ガ正當ノ理由ナクシテ前項ノ期間内ニ總會ヲ招集セザルトキハ請求者ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ之ヲ招集スルコトヲ得
第二十六條 組合員ハ總會ノ招集手續又ハ其ノ議決ノ方法法令又ハ定款ニ違反スト認ムルトキハ議決ノ日ヨリ一月以内ニ其ノ決議ノ取消ヲ朝鮮總督ニ請求スルコトヲ得
第二十七條 組合ニハ組合長一人、理事一人及監事二人以上ヲ置ク但シ必要アル場合ニ於テハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ副理事一人又ハ數人ヲ置クコトヲ得
組合長及監事ハ總會ニ於テ組合員又ハ組合員タル法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ中ヨリ之ヲ選任シ理事及副理事ハ朝鮮總督之ヲ任免ス
組合設立當時ノ組合長及監事ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムベシ
組合長ノ選任ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケタルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ
組合ニハ第一項ノ規定ニ依リ役員ノ外定款ノ定ムル所ニ依リ他ノ役員ヲ置クコトヲ得
第二十八條 組合長及監事ノ選任ハ總組合員ノ半數以上出席シ出席者ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス

組合員方會議ノ目的タル事項及其ノ招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ提出シテ總會ノ招集ヲ組合長ニ請求シタルトキハ組合長ハ三週間以内ニ總會ヲ招集スルコトヲ要ス
組合長ガ正當ノ理由ナクシテ前項ノ期間内ニ總會ヲ招集セザルトキハ請求者ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ之ヲ招集スルコトヲ得
第二十六條 組合員ハ總會ノ招集手續又ハ其ノ議決ノ方法法令又ハ定款ニ違反スト認ムルトキハ議決ノ日ヨリ一月以内ニ其ノ決議ノ取消ヲ朝鮮總督ニ請求スルコトヲ得
第二十七條 組合ニハ組合長一人、理事一人及監事二人以上ヲ置ク但シ必要アル場合ニ於テハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ副理事一人又ハ數人ヲ置クコトヲ得
組合長及監事ハ總會ニ於テ組合員又ハ組合員タル法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ中ヨリ之ヲ選任シ理事及副理事ハ朝鮮總督之ヲ任免ス
組合設立當時ノ組合長及監事ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムベシ
組合長ノ選任ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケタルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ
組合ニハ第一項ノ規定ニ依リ役員ノ外定款ノ定ムル所ニ依リ他ノ役員ヲ置クコトヲ得
第二十八條 組合長及監事ノ選任ハ總組合員ノ半數以上出席シ出席者ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス

第二十九條 組合長ハ組合ヲ代表ス但シ組合ノ常務ニ付テハ理事之ヲ代表ス
組合長ハ定款ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外總會及總代會ノ議長ト爲ル
組合長事故アルトキハ理事之ヲ代理シ缺員ノ場合ハ其ノ職務ヲ行フ副理事ハ組合長及理事ヲ輔佐シ定款ノ定ムル所ニ依リ理事ノ職務ヲ代理ス
第三十條 理事及副理事ハ他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得ズ但シ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ
第三十一條 理事、副理事又ハ使用人ハ其ノ組合ノ組合員トノ間ニ資金ノ供與、損益ノ分配其ノ他組合員ノ業務ニ付特別ノ利害關係ヲ有スルコトヲ得ズ
第三十二條 監事ハ其ノ組合ノ他ノ役員又ハ使用人ト相兼スルコトヲ得ズ
第三十三條 組合ガ組合ノ常務ニ關セザル事項ニ付組合長ト契約ヲ爲ス場合ニ於テハ監事組合ヲ代表ス組合ト組合長トノ間ニ於ケル訴訟ニ付亦同ジ
第三十四條 本令ニ規定スルモノヲ除クノ外組合ノ役員ニ關シ必要ナル事項ハ朝鮮總督之ヲ定ム
第三十五條 組合ノ總會ハ組合長之ヲ招集ス
組合長及理事共ニ事故アルトキ又ハ缺員ノ場合ニ於テハ總會ノ招集ハ監事之ヲ行フ
第三十六條 本令ニ規定スルモノヲ除クノ

外左ニ掲グル事項ハ總會ニ於テ之ヲ議決スベシ但シ組合設立當時ノ經費ノ收支豫算及經費ノ分賦收入方法ハ創立總會ニ於テ之ヲ議決スベシ
一 組合ノ解散
二 組合ノ分割又ハ合併
三 定款ノ變更
四 組合員ノ除名
五 組合員ノ加入ノ承諾又ハ拒否
六 經費ノ收支豫算及經費ノ分賦收入方法
七 其ノ他朝鮮總督ノ定ムル事項
第二十八條ノ規定ハ前項第一號乃至第五號ノ議決ニ之ヲ準用ス
第一項第一號乃至第六號ノ議決ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケタルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ
第三十七條 定款ノ變更ガ地區ノ變更ニ關スルトキハ定款變更ノ議決ノ外新ニ編入セラルベキ區域内ニ於テ朝鮮總督ノ定ムル資格ヲ有スル者又ハ削除セラルベキ區域内ニ事務所ヲ有スル組合員ノ過半數ノ同意アルコトヲ要ス
第三十八條 總會ノ議決ハ本令又ハ定款ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外出席シタル組合員ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス
第三十九條 組合員ハ定款ノ定ムル所ニ依リ總會ニ於テ出資口數ニ應ズル個數ノ議決權ヲ有ス但シ一人ニ付議決權總數ノ十分ノ二ヲ超ユルコトヲ得ズ

第四十條 組合員ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ代理人ヲ以テ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ヲ出席ト看做ス
第四十一條 組合ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ定款ヲ以テ總會ニ代ルベキ總代會ヲ設クルコトヲ得
總代ノ議決權ハ平等トス
前二條ノ規定ヲ除クノ外總會ニ關スル規定ハ第一項ノ總代會ニ之ヲ準用ス但シ總代會ニ於テハ解散、分割及合併ノ議決ヲ爲スコトヲ得ズ
第四十二條 組合ハ定款其ノ他朝鮮總督ノ定ムル書類ヲ事務所ニ備置クベシ
組合員及組合ノ債權者ハ前項ノ書類ノ閲覧ヲ求ムルコトヲ得
第四十三條 組合ガ出資一口ノ金額ノ減少ノ議決ヲ爲シタルトキハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ組合ノ債權者ニ對シ異議アルトキハ之ヲ述ベキ旨ヲ公告シ且知レタル債權者ニ各別ニ之ヲ催告スベシ
債權者ガ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ出資ノ減少ニ對シ異議ヲ述ベザリシトキハ之ヲ承認シタルモノト看做ス
債權者ガ異議ヲ述ベタルトキハ組合ハ之ニ辨濟ヲ爲シ又ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非ザレバ出資ヲ減少スルコトヲ得ズ
第四十四條 組合ハ組合員ノ脱退ノ場合ヲ除クノ外持分ノ拂戻ヲ爲スコトヲ得ズ
第四十五條 組合ハ損失ヲ填補シタル後ニ非ザレバ剩餘金ノ處分ヲ爲スコトヲ得ズ

第四十六條 組合ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ準備金ヲ積立ツベシ

第四十七條 本令ニ規定スルモノヲ除クノ外組合ノ管理ニ關シ必要ナル事項ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第四十八條 朝鮮總督ノ定ムル資格ヲ有スル者ハ組合ノ承認ヲ得テ其ノ組合ニ加入スルコトヲ得

組合ノ地區ノ變更ニ因リ新ニ組合ノ地區ニ編入セラルル區域内ニ事務所ヲ有スル組合員ハ前項ノ規定ニ拘ラズ地區ノ變更ノ際新ニ編入セラルル區域ヲ地區トシテ組合ニ加入スルコトヲ得

第四十九條 新ニ組合ニ加入シタル組合員ハ其ノ加入前ニ生ジタル組合ノ債務ニ付テモ亦責任ヲ負擔ス

第五十條 組合員ハ左ノ場合ニ脱退ス
一 組合ノ理事、副理事又ハ使用人ト爲リタルトキ
二 死亡、解散又ハ隱居シタルトキ
三 破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ
四 禁治産ノ宣告ヲ受ケタルトキ
五 除名セラレタルトキ
六 其ノ他朝鮮總督ノ定ムル場合ニ該當シタルトキ

第五十一條 組合員ノ除名ノ事由ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムベシ
除名ハ除名シタル組合員ニ其ノ旨ヲ通知スルニ非ザレバ之ヲ以テ其ノ組合員ニ對抗スルコトヲ得ズ

第五十二條 組合員ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ組合ノ承認ヲ得テ事業年度ノ終ニ於テ脱退スルコトヲ得

組合ハ正當ノ事由ナクシテ前項ノ承認ヲ拒ムコトヲ得ズ

第五十三條 組合員ハ組合ヲ脱退シタル後ト雖モ脱退前ニ組合ニ委託シタル米穀ニ關スル範圍内ニ於テハ仍舊組合ヲ脱退セザルモノト看做ス

前項ノ場合ニ於テ組合員ノ行爲ヲ爲ス者ナキトキハ組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ他人ヲシテ其ノ行爲ヲ爲サシムルコトヲ得

第五十四條 脱退シタル組合員ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ持分ノ全部又ハ一部ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得

持分ノ計算ヲ爲スニ當リ組合ノ財産ヲ以テ其ノ債務ヲ完済スルニ足ラザルトキハ脱退シタル組合員ハ出資額ヲ限度トシ其ノ負擔ニ歸スベキ金額ヲ拂込ムベシ

第五十五條 朝鮮總督ニ必要ト認ムルトキハ組合ニ對シテ左ノ命令ヲ爲スコトヲ得
一 經費ノ收支豫算、經費ノ分配收入方法及定款ノ變更
二 分割又ハ合併
三 朝鮮總督ノ指定スル者ノ加入ノ承諾
四 米穀ノ販賣先ノ指定

第五十六條 朝鮮總督ハ何時ニテモ組合ヲシテ其ノ業務及財産ノ狀況ヲ報告セシメ又ハ之ヲ検査シ其ノ他監督上必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第五十七條 朝鮮總督ハ組合ノ業務ノ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキ又ハ組合ノ行爲ヲ法令、定款若ハ朝鮮總督ノ命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アルトキハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 解散
二 業務ノ停止
三 役員ノ解任
四 總會ノ決議ヲ取消

第五十八條 組合ガ分割ヲ爲サントスルトキハ總會ノ議決ヲ經ルノ外分割ノ各組合ノ組合員ノ過半数ノ同意ヲ得テ分割ノ各組合ノ定款及權利義務其ノ他必要ナル事項ヲ定メ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケベシ

第五十九條 合併ニ因リテ組合ガ設立スル場合ニ於テハ定款ノ作成其ノ他設立ニ關スル行爲ハ各組合ニ於テ選任シタル者共同シテ之ヲ爲スコトヲ要ス第二十八條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ選任ニ之ヲ準用ス

第六十條 分割ニ因リテ設立シタル組合ハ第五十八條ノ規定ニ依リ定リタル限度ニ於テ從前ノ組合ノ權利義務ヲ承繼ス

合併後存続スル組合又ハ合併ニ因リテ設立シタル組合ハ合併ニ因リテ消滅シタル組合ノ權利義務ヲ承繼ス

第六十一條 第四十三條ノ規定ハ組合ノ分割又ハ合併ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十二條 本令ニ規定スルモノヲ除クノ外組合ノ分割又ハ合併ニ關シ必要ナル事項ハ朝鮮總督之ヲ定ム

日本標準規格四則(十一行全)(山田納)

第六十三條 組合ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

一 總會ノ決議
二 組合ノ合併
三 組合員ノ死亡
四 組合ノ破産
五 第五十七條第一號ノ處分

第六十四條 組合ガ解散、分割又ハ合併ヲ爲シタルトキハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ登記ヲ爲スベシ

第六十五條 合併ノ場合ヲ除クノ外解散シタル組合債務ヲ完済シ殘餘ノ財産アルトキハ定款ノ定ムル所ニ依リ之ヲ處分スルモノトス

第六十六條 組合ノ清算ハ朝鮮總督ノ監督ニ屬ス

朝鮮總督ハ清算人ヲシテ清算事務及財産ノ狀況ヲ報告セシメ又ハ之ヲ検査シ財産ノ供託ヲ命ジ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第六十七條 清算人ハ債務ヲ辨濟シ又ハ辨濟ニ必要ナル金額ヲ供託スルニ非ザレバ組合財産ヲ分配スルコトヲ得ズ

第六十八條 清算人ハ朝鮮總督之ヲ任免ス

第六十九條 本令ニ規定スルモノヲ除クノ外組合ノ清算ニ關シ必要ナル事項ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第七十條 組合ニ關シ本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ依リ登記スベキ事項ハ登記前ニ在リテハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第七十一條 本令ニ規定スルモノヲ除クノ外組合ノ登記ニ關シ必要ナル事項ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第七十二條 本令ニ規定スルモノヲ除クノ外朝鮮民事令ニ於テ依リコトヲ定メタル商法及商法施行法中商人ニ關スル規定ハ組合ニ之ヲ準用ス

第七十三條 朝鮮民事令ニ於テ依リコトヲ定メタル民法第四十四條第一項、第四十五條第二項、第四十八條、第四十九條、第五十四條、第五十五條、第五十九條、第六十條、第六十一條第一項、第六十二條、第六十四條、第六十六條、第七十條、第七十三條及第七十八條乃至第八十一條ノ規定ハ組合ニ之ヲ準用ス但シ第四十四條第一項、第五十四條及第五十五條中理事トアルハ組合長及理事、第六十條、第六十一條第一項及第七十條中理事トアルハ組合長、第六十二條中五日前トアルハ十日

前トス

第四章 朝鮮米穀輸移出組合中央會

第七十四條 朝鮮米穀輸移出組合中央會(以下中央會ト稱ス)ハ會員ノ業務上ノ指導ヲ爲シ、會員相互ノ聯絡其ノ他會員ノ業務ヲ發展ヲ圖ルヲ目的トスル法人トシ其ノ主たる事務所ヲ京城府ニ置ク

第七十五條 中央會ハ組合ヲ以テ之ヲ組織ス

組合ハ當然中央會ノ會員ト爲ルモノトス

第七十六條 中央會ハ左ノ業務ヲ行フモノトス

一 會員ニ對スル業務上ノ指導
二 會員相互ノ聯絡
三 會員ノ業務ニ關スル研究、調査其ノ他中央會ノ目的ヲ達スルニ必要ナル施設

第七十七條 中央會ニハ會長一人、專務理事一人、理事三人以上、監事二人以上及顧問若干人ヲ置ク

會長、專務理事、理事及顧問ハ朝鮮總督之ヲ任免ス

監事ハ總會ニ於テ會員ノ代表者中ヨリ之ヲ選任ス

監事ノ選任ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第七十八條 會長ハ中央會ヲ代表シ其ノ事務ヲ總理シ定款ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外總會ノ議長ト爲ル

專務理事ハ會長ヲ輔佐シ會長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ會長缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ

理事ハ會長ヲ輔佐シ定款ノ定ムル所ニ依リ中央會ノ事務ヲ分掌シ會長及專務理事共ニ事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ會長及專務理事共ニ缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ

顧問ハ重要ナル事務ニ付會長ノ諮問ニ應

第七十九條 中央會會長、專務理事又ハ理事ト契約ヲ爲ス場合ニ於テハ監事中央會ヲ代表ス中央會ト會長、專務理事又ハ理事トノ間ニ於ケル訴訟ニ付亦同ジ

第八十條 會員ノ議決權ハ平等トス

第八十一條 會員ハ其ノ解散ニ因リ脱退ス

第八十二條 第十條、第十三條第一項、第二十五條、第二十六條、第二十八條、第三十條、第三十二條、第三十四條、第三十五條第一項、第三十六條(第一項第二號、第四號及第五號ヲ除ク)、第三十八條、第四十二條、第四十七條、第五十五條第一號、第五十六條、第五十七條、第六十三條(第二號ヲ除ク)、第六十四條(分割及合併ニ關スル部分ヲ除ク)及第六十五條乃至第七十一條並ニ朝鮮民事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル民法第四十四條第一項、第四十五條第二項第三項、第四十八條、第五十條、第五十四條、第五十五條、第五十九條、第六十條、第六十一條第一項、第六十二條、第六十四條、第六十六條、第七十條、第七十三條及第七十八條乃至第八十一條ノ規定ハ中央會ニ之ヲ準用ス但シ第三十條中理事及副理事トアルハ會長、專務理事及理事トシ民法第四十四條第一項、第五十四條及第五十五條中理事トアルハ會長、專務理事及理事、同法第六十條、第六十一條第一項及第七十條中理事トアルハ會長トス

第八十三條 朝鮮總督ハ命令ヲ以テ本令ニ規定スル其ノ職權ノ一部ヲ道知事ニ委任スルコトヲ得

第八十四條 第一條ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ米穀ノ買入若ハ賣渡又ハ其ノ代理者ハ媒介ノ業務ヲ行ヒタル者ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第四條ノ規定ニ依ル制限又ハ停止ノ處分ニ違反シタル者

二 第六條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

第八十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第五條又ハ第七條ノ命令ニ違反シタル者

二 第五條又ハ第七條ノ規定ニ依ル検査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者

三 第十條第二項(第八十二條)ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ違反シタル者

第八十七條 第九條ノ規定ニ違反シテ米穀ノ輸出又ハ移出入ヲ爲シタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ米穀ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第八十八條 米穀ノ買入若ハ賣渡又ハ其ノ代理者ハ媒介ノ業務ヲ行フ者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ第八十四條、第八十五條、第八十六條第一號第三號及第八十七條ノ罰則ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第八十九條 第八十四條、第八十五條、第八十六條第一號第三號及第八十七條ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第九十條 組合ノ理事、副理事又ハ使用人第三十一條ノ規定ニ違反シテ組合員トノ間ニ特別ノ利害關係ヲ生ズルコトヲ目的トスル行爲ヲ爲シタルトキハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十一條 組合又ハ中央會ノ役員若ハ使用人又ハ清算人其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求シ若ハ約束シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サザルトキハ三年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第五章 雜則及罰則

日本標準規格(十一行)(山田納)

第一項ニ掲グル罪ハ朝鮮刑事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル刑法第四條ノ例ニ從フ

第九十二條 前條第一項ニ掲グル者ニ賄賂ヲ交付シ又ハ之ヲ提供シ若ハ約束シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第九十三條 組合左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ組合ノ組合長、理事、副理事又ハ監事ヲ二千圓以下ノ過料ニ處ス

一 第十一條ノ規定ニ依ラズシテ業務ヲ營ミタルトキ

二 第五十五條第四號ノ規定ニ依ル指定外ノ者ニ米穀ヲ販賣シタルトキ

中央會第七十六條ノ規定ニ依ラズシテ業務ヲ營ミタルトキハ會長、專務理事、理事又ハ監事ヲ過料ニ處スルコト亦前項ニ同ジ

第九十四條 組合ノ理事若ハ副理事又ハ中央會ノ會長、專務理事若ハ理事第三十條(第八十二條)ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ違反シテ他ノ職務又ハ商業ニ從事シタルトキハ千圓以下ノ過料ニ處ス

第九十五條 左ノ場合ニ於テハ組合ノ組合長、理事、副理事、監事若ハ清算人又ハ中

央會ノ會長、專務理事、理事、監事若ハ清算人ヲ千圓以下ノ過料ニ處ス

一 本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ依リ朝鮮總督ノ認可又ハ許可ヲ受ケベキ場合ニ於テ其ノ認可又ハ許可ヲ受ケザルトキ

二 本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキ

三 本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ依リ届出ヲ怠リ又ハ不正ノ届出ヲ爲シタルトキ

四 朝鮮總督又ハ總會若ハ總代會ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

五 本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ依リ朝鮮總督ノ微スル報告ヲ差出サズ又ハ検査ヲ拒ミ其ノ他朝鮮總督ノ命令又ハ處分ニ從ハザルトキ

六 本令ニ依ル總會又ハ總代會ノ招集ヲ怠リタルトキ

七 本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ依リ事務所ニ備置クベキ書類ヲ備ヘザルトキ其ノ書類ニ記載スベキ事項ヲ記載セズ若ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ又ハ正當ノ理由ナクシテ其ノ閱覽ヲ拒ミタルトキ

八 本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ

違反シテ組合員ノ持分ヲ拂戻シタルトキ

九 本令ニ違反シテ破産ノ宣告ヲ請求セザルトキ

十 本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シテ出資一口ノ金額ヲ減少シ又ハ組合ノ分割若ハ合併ヲ爲シタルトキ

十一 本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ依リ公告ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告ヲ爲シタルトキ

十二 清算ノ場合ニ於テ本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シテ辨濟ヲ爲シ又ハ財産ノ分配ヲ爲シタルトキ

十三 本令、本令ニ基キテ發スル命令又ハ定款ニ違反シテ剩餘金ノ處分ヲ爲シタルトキ

第九十六條 朝鮮民事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前三條ノ過料ニ之ヲ準用ス

附則

第九十七條 本令施行ノ期日ハ各規定ニ付朝鮮總督之ヲ定ム

第九十八條 朝鮮總督ハ設立委員ヲ命ジ中央會ノ設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

設立委員ハ定款ヲ作成シ朝鮮總督ノ認可ヲ受クベシ

第九十九條 設立委員ハ前條第二項ノ認可アリタルトキハ遲滞ナク創立總會ヲ招集シテ中央會設立當時ノ經費ノ收支豫算、經費ノ分賦收入方法其ノ他必要ナル事項ヲ定メ監事ヲ選任シ中央會設立ニ付朝鮮總督ノ認可ヲ受クベシ

第二十八條ノ規定ハ中央會ノ創立總會ニ之ヲ準用ス
第一百條 中央會ハ前條第一項ノ認可アリタルトキ成立ス
設立委員ハ中央會成立シタルトキハ直ニ其ノ事務ヲ中央會會長ニ引渡スベシ

第一百一條 中央會成立シタルトキハ中央會會長ハ二週間以内ニ中央會ノ各事務所ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ登記スベシ
一 目的
二 名稱
三 事務所
四 成立ノ年月日
五 會長、專務理事、理事及監事ノ氏名及住所
前項ノ登記ノ申請書ニハ定款ヲ添附スベシ

第九十二條 第九條ノ規定施行前ニ米穀ノ輸出又ハ移出ノ契約ヲ爲シタル者ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ同條ノ規定施行後二ヶ月以内ニ限リ同條ノ規定ニ拘ラス其ノ米穀ヲ輸出又ハ移出スルコトヲ得

第一百零三條 第十條(第八十二條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)ノ規定施行ノ際現ニ朝鮮米穀輸移出組合若ハ朝鮮米穀輸移出組合中央會又ハ之ニ類似ノ名稱ヲ以テ商號ト爲ス者ハ同條ノ規定施行後六月以内ニ其ノ商號ヲ變更スルコトヲ要ス

第八十六條第三號ノ規定ハ前項ノ期間内之ヲ前項ニ掲グル者ニ適用セズ
第一百零四條 本令公布ノ際現ニ第一條ノ許可ヲ受クベキ米穀ノ買入若ハ賣渡又ハ其ノ代理若ハ媒介ノ業務ヲ行フ者ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ同條ノ規定施行ノ日ヨリ之ヲ同條ノ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

日本標準規格(十一行全)(山田納)

參照

朝鮮登錄稅令

明治四十五年三月二十二日
朝鮮登錄稅令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ公布ス

第三條ノ三 朝鮮農地開發營團力朝鮮農地開發債券ニ付登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

- 一 朝鮮農地開發債券ノ拂込
拂込金額 千分ノ一
 - 二 登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止
每一件 五圓
- 從タル事務所ノ所在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受クルトキハ每一件一圓五十錢ノ登錄稅ヲ納ムヘシ

第四條ノ六 朝鮮米穀市場株式會社力朝鮮米穀市場株式會社令第六十一條第一項ニ規定スル買取ニ基ク不動產ニ關スル權利ノ取得ニ付登記ヲ受クルトキハ左ノ登錄稅ヲ納ムヘシ但シ他ノ規定ニ依リ算出シタル稅額力本條ノ規定ニ依リ算出シタル稅額ヨリ少キトキハ其ノ稅額ニ依ル

不動產價格 千分ノ三

第四條ノ七 國際電氣通信株式會社力國際電氣通信株式會社法第六條第三項ニ規定スル出資ニ基ク不動產ニ關スル權利ノ取得ニ付登記ヲ受クルトキハ左ノ登錄稅ヲ納ムヘシ

不動產價格 千分ノ三

内閣

第七條 左ニ掲グルモノニハ登録稅ヲ課セス但シ第八條、第十條乃至第十二條及第十六條ニ付テハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依ル
 一 政府自己ノ爲ニスル登記又ハ登録

(朝鮮農地開發營團)
 七 恩給金庫、朝鮮住宅營團、金融組合、朝鮮金融組合聯合會、商業組合、商業組合聯合會、殖産契、工業組合、工業組合聯合會、工業小組合、朝鮮工業組合中央會、自動車運送事業組合、自動車運送事業組合聯合會、海運組合、海運組合聯合會、産業組合、産業組合聯合會、商業小組合、朝鮮産業組合中央會、貸家組合、貸家組合聯合會、貸家小組合、朝鮮馬車會、原木生産組合、製材生産組合、木材配給組合、漁業組合又ハ漁業組合聯合會ニ付恩給金庫法、朝鮮住宅營團、朝鮮金融組合、朝鮮金融組合聯合會、朝鮮産業組合、朝鮮住宅營團、朝鮮工業組合、朝鮮自動車交通事業會、朝鮮海運組合、殖産契、朝鮮商業組合、朝鮮貸家組合、朝鮮馬車會、朝鮮木材統制會、朝鮮漁業組合ニ基キテ爲ス登記(恩給債券又ハ朝鮮金融債券ニ付恩給金庫法朝鮮農地開發營團令又ハ朝鮮金融債券ヲ除ク)
 朝鮮農地
 十六 貸家若ハ貸室用建物又ハ其ノ用地ニ付貸家組合員又ハ貸室組合員カ其ノ所屬組合ヨリノ權利ノ取得ノ登記

日本標準規格四則(十二行イ)(山田納)

七月七日

朝鮮電力管理令

昭和十八年三月三十日
 制 令 第 五 號

第六十七條 朝鮮登録稅令中左ノ通改正ス

第四條ノ八 朝鮮電業株式會社左ノ事項ニ付登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ但シ他ノ規定ニ依リ算出シタル額カ本條ノ規定ニ依リ算出シタル稅額ヨリ少キトキノ稅額ニ依ル

- 一 設立又ハ朝鮮電力管理令第七條ニ規定スル出資若ハ昭和十一年勅令第二百六十六號ニ規定スル出資ニ依ル資本ノ増加拂込株金額又ハ増資拂込株金額 千分ノ〇、五
- 二 朝鮮電力管理令第七條ニ規定スル讓渡若ハ出資又ハ昭和十一年勅令第二百六十六號ニ規定スル出資ノ場合ニ於ケル不動産ニ關スル權利ノ取得 千分ノ三

未施行

朝鮮電業株式會社カ設立ノ登記ヲ受クルトキハ其ノ拂込株金額中朝鮮電力管理令第五十條ノ規定ニ依リ朝鮮電業株式會社ト爲リタル株式會社ノ拂込株金額ニ相當スル部分ニ付テハ登録稅ヲ免除ス朝鮮電業株式會社カ朝鮮電力管理令第七條ニ規定スル合併、讓渡若ハ出資ニ依リ又ハ同令第五十八條ノ規定ニ依リ不動産ニ關スル權利ヲ承繼スル場合ニ於ケル其ノ取得ニ付登記ヲ受クルトキ亦前項ニ同シ

(小冊子)

● 印紙稅令

大正八年三月二十七日
勅令第六號

改正 大正二年第一一號、一五年第四號
昭和八年第一五號、一六年第二三號

印紙稅令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ公布ス

印紙稅令

第一條 證書、帳簿ヲ作成スル者ハ本令ニ依リ印紙稅ヲ納ムヘシ
印紙稅ニ關シテハ印紙稅法ニ依ル但シ同法中産業組合トアルハ産業組合又ハ金融組合、産業組合聯合會トアルハ産業組合聯合會又ハ朝鮮金融組合聯合會、住宅費關トアルハ朝鮮住宅費關、住宅債券トアルハ朝鮮住宅債券トス
第二條 印紙稅法第四條及第五條ノ證書、帳簿ト類似ノ效用ヲ有スルモノニ付テハ其ノ名稱ニ拘ラス同條ノ規定ニ依ル

附則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行前作成シタル帳簿ヲ引續キ使用スルトキハ新ニ帳簿ヲ作成シタルモノト看做ス
附則 (昭和八年勅令第十五號)
本令施行ノ期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム
(昭和八年朝鮮總督府令第八十二號ヲ以テ昭和八年八月三十一日ヨリ施行)

本令
施行

日本標準規格印刷(十一号)(山口組)

食糧管理法朝鮮施行令關係法規

食糧管理法朝鮮施行令

昭和十七年六月二十六日
勅令第五百九十八號

第一條 食糧管理法第二條、第十一條第一項第四項、第十二條、第三十二條第一項第二號及同條第二項ノ規定並ニ同法第三條第一項中米穀、大麥、稷麥又ハ小麥ノ略稱ニ關スル規定ハ之ヲ朝鮮ニ施行ス
食糧管理法第三十三條及第三十七條ノ規定ハ同法第十一條第一項第四項ノ規定ニ關係アル範圍内ニ於テ、同法第四十五條ノ規定ハ米穀統制法及米穀自治管理法ノ廢止ニ關係アル範圍内ニ於テ之ヲ朝鮮ニ施行ス

第二條 食糧管理法施行令第十六條乃至第十八條、第十九條第一項及第二十四條ノ規定ハ之ヲ朝鮮ニ適用セズ

第三條 食糧管理法第十一條第一項ノ規定ニ依ル許可ハ朝鮮總督之ヲ行フ
前項ノ許可ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ之ヲ受クルコトヲ要セズ
一 朝鮮總督ノ指定スル者ガ米麥ヲ輸出若ハ移出シ又ハ輸入若ハ移入スルトキ

二 船用品タル米麥又ハ命令ヲ以テ定ムル旅客ノ携帶品タル米麥、標本米麥其ノ他之ニ準ズベキモノヲ輸出若ハ移出シ又ハ輸入若ハ移入スルトキ

第四條 米麥以外ノ主要食糧ニシテ朝鮮總督ノ指定スルモノノ輸出若ハ移出又ハ輸入若ハ移入ハ朝鮮總督ノ指定スル期間其ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ但シ命令ヲ以テ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

附則

本令ハ昭和十七年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

食糧管理法施行規則

昭和十七年七月一日
朝鮮總督府令第四百七十四號

第一條 食糧管理法第十一條第一項ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル申請書正副

二通ヲ朝鮮總督ニ提出スベシ

一 生産地

二 種類別數量

三 種類別單價及價額

四 目的

五 仕向地、仕向港又ハ仕向驛、仕出地及仕出港又ハ仕出驛

六 輸出若ハ移出又ハ輸入若ハ移入ノ時期

米麥ノ輸出若ハ移出又ハ輸入若ハ移入ノ許可ヲ受ケル者前項各號ニ掲グル事項ヲ變更セントスルトキハ朝鮮總督ノ許可ヲ受クベシ

第二條 食糧管理法第十一條第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル者ハ當該物品ノ輸出又ハ輸入ヲ爲ス場合ニ於テ朝鮮總督ノ交付スル許可書ヲ當該税關ニ提示スベシ

第三條 食糧管理法朝鮮施行令第三條第二項第一號ノ規定ニ依リ朝鮮米穀市場株式會社ヲ指定ス

第四條 食糧管理法朝鮮施行令第三條第二項第二號ノ旅客ノ携帶品タル米麥ハ旅客ノ携帶品ニシテ百斤

ヲ超エザルモノトシ標本米麥其ノ他之ニ準ズベキモノハ標本又ハ見本タル米麥ニシテ郵便物タルモノ

トス

第五條 第一條ノ規定ニ依ル許可申請書ハ輸出又ハ輸入ノ場合ニ在リテハ當該稅關ヲ、移出又ハ移入ノ

場合ニ在リテハ仕出地又ハ仕向地ヲ管轄スル道知事ヲ經由スベシ

附則

第六條 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第七條 左ニ掲グル朝鮮總督府令ハ之ヲ廢止ス

一 米穀自治管理法施行規則

二 昭和八年朝鮮總督府令第二百二十九號

三 昭和十二年朝鮮總督府令第四號

米穀統制組合、地方米穀統制組合聯合會及米穀商統制組合ノ清算ニ付テハ米穀自治管理法施行規則廢止ノ後ト雖モ仍從前ノ例ニ依ル

第八條 昭和十三年朝鮮總督府令第六十一號別表乙號中「一〇 密蜂」ノ次ニ

- 「一二 米及稗
- 一三 大麥
- 一六 小麥
- 三〇ノ内 稗麥」

加ヘ同表丙號中「一三 大麥」及「一六 小麥」ヲ削ル

(參照)

昭和八年朝鮮總督府令第二百二十九號ハ米穀統制法第七條ノ規定ニ依ル米穀ノ輸入又ハ輸出ノ制限ニ關スル件同十二年朝鮮總督府令第四號ハ米穀自治管理法第五十一條第一項ノ規定ニ依ル土地指定ノ件及同十三年朝鮮總督府令第六十一號ハ昭和十二年法律第九十二號(輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律)第一條ニ依ル命令ノ件ナリ

食糧管理法

昭和十七年二月二十日
法律第四十號

(本字ハ朝鮮ニ施行セ
ラルル條文ヲ示ス)

六

第一條 本法ハ國民食糧ノ確保及國民經濟ノ安定ヲ圖ル爲食糧ヲ管理シ其ノ需給及價格ノ調整並ニ配給ノ統制ヲ行フコトヲ目的トス

第二條 本法ニ於テ主要食糧トハ米穀、大麥、粟麥、小麥其ノ他勅令ヲ以テ定ムル食糧ヲ謂フ

第三條 米穀、大麥、粟麥又ハ小麥(以下米麥ト稱ス)ノ生産者又ハ土地ニ付權利ヲ有シ小作料トシテ

之ヲ受クル者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ生産シ又ハ小作料トシテ受ケタル米麥ニシテ勅令ヲ以テ定

ムルモノヲ政府ニ賣渡スベシ

前項ノ場合ニ於ケル政府ノ買入ノ價格ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ生産費及物價其ノ他ノ經濟事情ヲ參酌

シテ之ヲ定ム

第四條 政府ハ其ノ買入タル米麥ヲ食糧營團又ハ政府ノ指定スル者ニ賣渡スモノトス

前項ノ場合ニ於ケル政府ノ賣渡ノ價格ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ家計費及物價其ノ他ノ經濟事情ヲ參酌

シテ之ヲ定ム

第五條 政府ハ必要アリト認ムルトキハ米麥以外ノ主要食糧ノ買入又ハ賣渡ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於ケル政府ノ買入又ハ賣渡ノ價格ハ時價ニ準據シテ之ヲ定ム

第六條 政府ハ必要アリト認ムルトキハ主要食糧ノ輸入若ハ移入ヲ目的トスル買入又ハ輸出若ハ移出ヲ

目的トスル賣渡ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於ケル政府ノ買入又ハ賣渡ノ價格ハ政府之ヲ定ム

第七條 政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ主要食糧ノ貸付又ハ交付ヲ爲スコトヲ得

政府ハ必要アリト認ムルトキハ主要食糧ノ貯藏、交換、加工又ハ製造ヲ爲スコトヲ得

第八條 第三條第一項ノ者ハ同項ノ規定ニ依リ其ノ者ガ政府ニ賣渡スベキ米麥ニ付勅令ノ定ムル所ニ依

リ検査ヲ受クベシ但シ勅令ヲ以テ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

政府ハ必要アリト認ムルトキハ前項ノ検査ノ外勅令ノ定ムル所ニ依リ主要食糧ニ付検査ヲ受クベキコ

トヲ命ズルコトヲ得

第九條 政府ハ特ニ必要アリト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ主要食糧ノ配給、加工、製造、讓渡

其ノ他ノ處分、使用、消費、保管及移動ニ關シ必要ナル勅令ヲ爲スコトヲ得

第十條 政府ハ特ニ必要アリト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ主要食糧ノ價格、加工賃又ハ製造ノ

料金ニ關シ必要ナル勅令ヲ爲スコトヲ得

七

第十一條 米麥ノ輸出若ハ移出又ハ輸入若ハ移入ハ勅令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外政府ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

前項ノ規定ニ依リ政府ノ許可ヲ受ケ米麥ヲ輸入又ハ移入シタル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ輸入又ハ移入シタル米麥ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノヲ政府ニ賣渡スベシ

前項ノ場合ニ於ケル政府ノ買入ノ價格ハ政府之ヲ定ム

政府ハ特ニ必要アリト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ期間ヲ指定シ米麥以外ノ主要食糧ノ輸出若ハ移出又ハ輸入若ハ移入ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得

第十二條 政府ハ必要アリト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ期間ヲ指定シ主要食糧ノ輸入税ヲ増減又ハ免除スルコトヲ得

第十三條 主要食糧ノ生産費、生産高、現在高及移動ノ調査、家計費ノ調査其ノ他主要食糧ノ管理ヲ行フ爲必要ナル調査ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ前項ノ調査ヲ行フ爲必要ナル報告ヲ徴シ又ハ當該官吏若ハ吏員ヲシテ必要ナル場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

第十四條 食糧營團ハ法人トシ政府之ヲ監督ス

食糧營團ハ中央食糧營團及地方食糧營團トス

食糧營團ニ非ザル者ハ食糧營團又ハ之ニ類似スル名稱ヲ用フルコトヲ得ズ

第十五條 中央食糧營團ハ政府ノ定ムル食糧配給計畫ニ基キ主要食糧ヲ配給スルト共ニ政府ノ指定スル食糧ヲ貯藏スル爲必要ナル事業ヲ行フコトヲ得

中央食糧營團ハ主タル事務所ヲ東京市ニ置ク

中央食糧營團ハ政府ノ認可ヲ受ケ必要ノ地ニ從タル事務所ヲ設置スルコトヲ得

第十六條 中央食糧營團ノ資本金ハ一億圓トシ之ヲ二百萬口ニ分チ一口ノ出資金額ヲ五十圓トス但シ資本金ハ政府ノ認可ヲ受ケ之ヲ増加スルコトヲ得政府ハ五千萬圓ヲ限リ中央食糧營團ニ出資スベシ

政府ノ引受ケタル出資金拂込ハ其ノ他ノ出資ノ出資金拂込ト之ヲ異ニスルコトヲ得

第十七條 中央食糧營團ハ定款ヲ以テ出資者ノ資格ヲ制限スルコトヲ得

第十八條 中央食糧營團ニ總裁副總裁各一人、理事五人以上、監事三人以上及評議員若干人ヲ置キ政府之ヲ命ズ

第十九條 中央食糧營團ハ左ノ事業ヲ行フモノトス

一 主要食糧ノ買入

二 地方食糧營團又ハ政府ノ指定スル者ニ對スル主要食糧ノ賣渡

三 政府ノ指定スル食糧ノ貯藏

四 政府ノ指定スル主要食糧ノ加工、製造及保管

五 前各號ノ事業ニ附帶スル事業

六 前各號ノ外中央食糧營團ノ目的達成上必要ナル事業

中央食糧營團前項第五號又ハ第六號ノ事業ヲ行ハントスルトキハ政府ノ認可ヲ受クベシ

中央食糧營團ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ事業ノ全部又ハ一部ヲ廢止シ又ハ休止スルコトヲ

得ズ

第二十條 政府ハ中央食糧營團ニ對シ主要食糧ノ配給上必要ナル事業ヲ行フベキコトヲ命ジ其ノ他業務

ニ關シ公益上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十一條 中央食糧營團ハ政府ノ許可ヲ受ケ其ノ寄託ヲ受ケタル物ニ付倉荷證券ヲ發行スルコトヲ得

商業組合法第三條ノ六第二項第三項、第三條ノ七、第三條ノ八第一項第二項本文及第三條ノ九ノ規定ハ

前項ノ倉荷證券ニ付之ヲ準用ス但シ同法第三條ノ七、第三條ノ八第一項及第三條ノ九中商業組合倉庫

證券トアルハ食糧營團倉庫證券トス

第二十二條 中央食糧營團ハ繰込資本金額ノ五倍ヲ限リ食糧營團債券ヲ發行スルコトヲ得

政府ハ食糧營團債券ノ元利支拂ヲ保證スルコトヲ得

第二十三條 中央食糧營團ハ販賣ノ目的ヲ以テ買入ルル者ニ主要食糧ヲ賣渡ストキハ命令ノ定ムル所ニ

依リ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ主要食糧ノ販賣ニ關シ必要ナル事項ヲ指示スルコトヲ得

政府ハ主要食糧ノ配給上特ニ必要アリト認ムルトキハ前項ノ者ニ對シ同項ノ指示ニ從フベキコトヲ命

ズルコトヲ得

第二十四條 中央食糧營團ノ解散及清算ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十五條 地方食糧營團ハ地方長官(樺太廳長官ヲ含ム以下同ジ)ノ定ル食糧配給計畫ニ基キ地方的ニ

主要食糧ヲ配給スルト共ニ地方長官ノ指定スル食糧ヲ貯藏スル爲ニ必要ナル事業ヲ行フコトヲ得目的トス

地方食糧營團ノ名稱、資本金及主タル事務所ノ所在地ハ政府之ヲ定ム地方食糧營團ノ名稱ニハ其ノ主

タル事務所ノ所在スル道府縣ノ名(樺太ニ在リテハ樺太)ヲ冠ス

政府ハ樺太ニ地方食糧營團ヲ設立セシムル場合ニ於テハ八百萬圓ヲ限リ之ニ出資スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル出資ハ樺太廳特別會計ノ歳出トシ之ニ因リ取得シタル出資證券ハ同會計ノ所屬物件

トス

第十六條第三項ノ規定ハ第四項ノ規定ニ依ル出資ノ出資金拂込ニ之ヲ準用ス

第二十六條 中央食糧營團ハ政府ノ認可ヲ受ケ地方食糧營團ニ出資スルコトヲ得

第十六條第三項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル出資ノ出資金拂込ニ之ヲ準用ス

第二十七條 地方食糧營團ニ理事長一人、理事三人以上、監事二人以上及評議員若干人ヲ置キ地方長官之ヲ命ズ

第二十八條 地方食糧營團ハ左ノ事業ヲ行フモノトス

一 主要食糧ノ買入及賣渡

二 地方長官ノ指定スル食糧ノ貯藏

三 地方長官ノ指定スル主要食糧ノ加工及製造

四 前各號ノ事業ニ附帶スル事業

五 前各號ノ外地方長官ノ指定スル主要食糧ノ保管其ノ他地方食糧營團ノ目的達成上必要ナル事業

地方食糧營團前項第四號又ハ第五號ノ事業ヲ行ハントスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

第二十九條 第十五條第三項、第十七條、第十九條第三項、第二十條、第二十一條、第二十三條及第二十四條ノ規定ハ地方食糧營團ニ付之ヲ準用ス

第三十條 農地開發法第八條、第十條乃至第十四條、第十七條、第十九條、第二十條後段、第二十一條、第二十二條第二項第三項、第二十五條乃至第二十七條、第二十九條乃至第三十七條及第三十九條乃至

第四十一條ノ規定ハ食糧營團ニ付之ヲ準用ス但シ同法第十二條第一項、第十三條第二項、第二十一條、

第二十七條、第三十五條、第三十七條第二項、第三十九條、第四十條第一項及第四十一條中主務大臣トアルハ政府トシ同法第十九條第二項中副理事長ハトアルハ地方食糧營團ニ付テハ理事ハ定款ノ定ム

ル所ニ依リトシ同法第四十條中農地開發營團監理官トアルハ食糧營團監理官トス

第三十一條 第九條又ハ第十條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ五萬圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第三條第一項又ハ第十一條第二項ノ規定ニ違反シタル者

二 第十一條第一項ノ規定ニ違反シ又ハ同條第四項ノ規定ニ依ル禁止若ハ制限ニ違反シタル者

前項第二號ノ場合ニ於テ輸出若ハ移出又ハ輸入若ハ移入シタル主要食糧ニシテ犯人ノ所有シ又ハ所持スルモノハ之ヲ沒收スルコトヲ得若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徴スルコトヲ得

第三十三條 前二條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ情狀ニ因リ懲役及罰金ヲ併科スルコトヲ得

第三十四條 第二十三條第二項(第二十九條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 不正ノ手段ニ依リ第八條ノ規定ニ依ル検査ヲ受ケ又ハ受ケントシタル者

二 第八條第二項ノ規定ニ依ル検査ヲ受ケザル者

三 第十三條第二項ノ規定ニ依ル報告ヲ怠リ又ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタル者

第三十六條 第十三條第二項ノ規定ニ依ル當該官吏又ハ吏員ノ検査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十七條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ第三十一條、第三十二條、第三十四條又ハ第三十五條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第三十八條 食糧營團ノ總裁、副總裁、理事長、理事、監事又ハ使用人其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求シ若ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サザルトキハ五年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ受收シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコトハ能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第三十九條 前條第一項ニ掲グル者ニ對シ賄賂ヲ交付シ又ハ之ヲ提供シ若ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第四十條 食糧營團本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ總裁、理事長、總裁ノ職務ヲ行ヒ若ハ代理スル副總裁又ハ理事長ノ職務ヲ行ヒ若ハ代理スル理事ヲ五千圓以下ノ過料ニ處ス副總裁又ハ理事ノ分掌業務ニ係ルトキハ副總裁又ハ理事ヲ過料ニ處スルコト亦同ジ

第四十一條 食糧營團ノ總裁、副總裁、理事長又ハ業務ヲ分掌スル理事第三十條ニ於テ準用スル農地開

發法第二十一條ノ規定ニ違反シ他ノ職務ニ從事シタルトキハ千圓以下ノ過料ニ處ス

第四十二條 第十四條第三項ノ規定ニ違反シ食糧營團又ハ之ニ類似スル名稱ヲ用ヒタル者ハ千圓以下ノ過料ニ處ス

第四十三條 本法ノ一部ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ樺太ニ適用セザルコトヲ得

樺太ニ於テ本法ヲ適用スルニ付必要ナル事項ニ關シテハ勅令ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ得

一六

附 則

第四十四條 本法施行ノ朝日ハ各規定ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十五條 左ニ掲グル法律ハ之ヲ廢止ス

- 一 農産物検査法
- 二 米穀統制法
- 三 米穀自治管理法
- 四 米穀配給統制法
- 五 糧共同貯藏助成法
- 六 政府所有米穀特別處理法
- 七 昭和九年法律第五十二號
- 八 昭和十二年法律第九十號

前項ニ掲グル法律廢止前當該法律ノ罰則ヲ適用スベカリシ行爲ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル第一項ニ掲グル法律ノ廢止ニ關シ必要ナル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十六條 政府ハ設立委員ヲ命ジ中央食糧營團ノ設立ニ關スル事務ヲ處理セシム

第四十七條 設立委員ハ定款ヲ作成シ政府ノ認可ヲ受クベシ

政府ハ前項ノ認可ヲ爲シタルトキハ第十九條第一項ニ掲グル事業ト同種ノ事業ヲ行フ株式会社、商業組合、商業組合聯合會、工業組合又ハ工業組合聯合會ニシテ勅令ヲ以テ定ムルモノニ對シ其ノ解散ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ命令ヲ受ケタル法人ハ中央食糧營團成立ノ時解散スルモノトシ其ノ權利義務ハ中央食糧營團之ヲ承繼ス此ノ場合ニ於テハ他ノ法令中解散及清算ニ關スル規定ハ之ヲ其ノ法人ニ適用セズ

第四十八條 前條第一項ノ認可アリタルトキハ設立委員ハ政府ノ引受ケタル出資及勅令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ認可ヲ受ケ同條第二項ノ命令ニ係ル法人ノ株式又ハ出資ニ引當テタル出資ヲ控除シタル殘餘ノ出資ニ付出資者ヲ募集スベシ

政府ハ前項ノ認可ヲ爲サントスルトキハ食糧配給事業評價委員會ノ議ヲ經ベシ

食糧配給事業評價委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十九條 設立委員ハ出資者ノ募集ヲ終リタルトキハ出資申込書ヲ政府ニ提出シ其ノ検査ヲ受クベシ
設立委員ハ前項ノ検査ヲ受ケタル後遲滞ナク出資第一回ノ拂込ヲ爲サシムベシ

一七

出資第一回ノ拂込完了シタルトキハ出資者ノ總會ヲ招集スベシ

前項ノ總會終結シタルトキハ設立委員ハ遲滞ナク其ノ事務ヲ中央食糧營團總裁ニ引渡スベシ

總裁前項ノ事務ノ引渡ヲ受ケタルトキハ總裁、副總裁、理事及監事ノ全員ハ主タル事務所ノ所在地ニ

於テ設立ノ登記ヲ爲スベシ

中央食糧營團ハ設立ノ登記ヲ爲スニ因リテ成立ス

第五十條 本法ニ規定スルモノノ外中央食糧營團ノ設立及第四十七條第二項ノ命令ニ係ル法人ノ解散ニ

關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十一條 前五條ノ規定ハ地方食糧營團ニ付之ヲ準用ス但シ第四十七條第二項中第十九條第一項トアルハ第二十八條第一項トス

第五十二條 第四十七條第三項ノ規定ニ依リ解散シタル商業組合又ハ商業組合聯合會ノ發行シタル倉荷證券アルトキハ之ヲ當該商業組合又ハ商業組合聯合會ノ權利義務ヲ承繼シタル食糧營團ノ發行シタル

倉荷證券ト看做ス

第五十三條 登録税法中左ノ通改正ス

第五條ノ二 中央食糧營團カ食糧營團債券ニ付登記ヲ受ケタルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ムヘシ

一 食糧營團債券又ハ其ノ第二回以後ノ拂込 毎回拂込金額 千分ノ二

二 登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止 毎 一件 金十圓

從タル事務所ノ所在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受ケタルトキハ每一件金二圓ノ登録税ヲ納ムヘシ

第十九條第七號中「農地開發營團、」ノ下ニ「食糧營團、」ヲ、「農地開發法、」ノ下ニ「倉庫管理法、」ヲ

加フ

第五十四條 印紙税法第五條中第五號ノ二ヲ第五號ノ三、第五號ノ三ヲ第五號ノ四トシ第五號ノ次ニ左

ノ一號ヲ加フ

五ノ二 食糧營團ノ發スル出資證券及食糧營團債券

第五十五條 産業組合中央金庫法第十五條第一項ニ左ノ一號ヲ加フ

五 食糧營團其ノ他農林水産業ニ關スル事業ヲ營ム法人ニ對シ主務大臣ノ認可ヲ受ケ短期貸付ヲ爲ス

コト

第五十六條 商工組合中央金庫法第二十九條第一項第三號中「又ハ自動車運送事業組合聯合會」ヲ、「自

動車運送事業組合聯合會又ハ食糧營團」ニ改ム

第五十七條 第十四條第三項ノ規定施行ノ際現ニ食糧營團又ハ之ニ類似スル名稱ヲ使用スル者ハ同項ノ

規定施行後六月以内ニ其ノ名稱ヲ變更スルコトヲ要ス、
第四十二條ノ規定ハ前項ノ期間内之ヲ同項ノ者ニ適用セズ

二〇

食糧管理法ノ一部施行期日ノ件

昭和十七年六月二十三日
勅令第五百九十一號

食糧管理法第一條乃至第七條、第九條乃至第二十三條、第二十五條乃至第三十四條、第三十五條第三號、
第三十六條、第三十八條乃至第四十三條、第四十五條第一項第一號乃至第三號、第五號乃至第八號及同
條第二項第三項並ニ第四十六條乃至第五十七條ノ規定ハ昭和十七年七月一日ヨリ、同法第三十七條ノ規
定ハ同法第三十一條、第三十二條、第三十四條及第三十五條第三號ノ規定ニ關係アル範圍内ニ於テ同日
ヨリ之ヲ施行ス

食糧管理法施行令

昭和十七年六月二十三日
勅令第五百九十二號 (大字ハ朝鮮ニ適用セ)
ラール條文ヲ示ス)

第一條 食糧管理法第二條ノ規定ニ依リ食糧ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 一 雜穀
- 二 穀粉
- 三 甘藷及馬鈴薯並ニ其ノ加工品タル食糧
- 四 麵類
- 五 バン

第二條 食糧管理法第三條第二項ノ買入ノ價格ハ毎年當該年産ノ米穀ニ付四月三十日迄ニ、翌年産ノ大
麥、裸麥及小麥ニ付十月三十一日迄ニ農林大臣之ヲ定メ告示ス

玄米及玄麥ニ付テノ前項ノ買入ノ價格ハ農林大臣ノ定ムル標準買入價格ヲ農林大臣ノ指定スル銘柄及
等級ノ米麥ノ買入ノ價格ノ各總平均ヲラシムル計算ノ下ニ命令ノ定ムル所ニ依リ格差ニ從ヒ各銘柄及
等級ノ米麥毎ニ之ヲ定ム

粳、精米及精麥ニ付テノ第一項ノ買入ノ價格ハ前項ノ規定ニ依リ定ムル玄米及玄麥ノ買入ノ價格ニ準

據シテ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ定ム

第二項ノ標準買入價格ハ米麥ノ生産費ニ運賃諸掛ヲ加ヘタル額ニ基キ米麥ノ價格指數ト物價指數トノ關係ヨリ算出シタル價格及經濟事情ヲ參酌シテ之ヲ定ム

前項ノ米麥ノ生産費ノ算出方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 内地産ノ米麥ニ付テノ食糧管理法第四條第二項ノ賣渡ノ價格ハ命令ノ定ムル所ニ依リ玄米及玄麥ニ在リテハ農林大臣ノ定ムル標準賣渡價格ト前條第二項ノ標準買入價格トノ差額ヲ同項ノ規定ニ依リ定ムル各銘柄及等級ノ米麥ノ買入ノ價格ニ加減シ運賃諸掛等ヲ參酌シテ毎年農林大臣之ヲ定メ精米及精麥ニ在リテハ玄米及玄麥ノ賣渡ノ價格ニ準據シテ毎年農林大臣之ヲ定ム

前項ノ標準賣渡價格ハ玄米ニ付テハ家計費ヲ基礎トシテ算出シタル家計米價ニ基キ米價指數ト物價指數トノ關係ヨリ算出シタル價格及經濟事情ヲ參酌シテ之ヲ定メ玄麥ニ付テハ玄米ノ標準賣渡價格及經濟事情ヲ參酌シテ之ヲ定ム

前項ノ家計米價ノ算出方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

外地産又ハ外國産ノ米麥ニ付テノ食糧管理法第四條第二項ノ賣渡ノ價格ハ第一項ノ規定ニ依リ定ムル内地産ノ米麥ノ賣渡ノ價格ヲ參酌シテ農林大臣之ヲ定ム

農林大臣米麥ノ賣渡ノ圓滑ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ第一項又ハ前項ノ規定ニ依リ定ムル價格ニ基キ農林大臣ノ定ムル平準價格ヲ以テ食糧管理法第四條第二項ノ賣渡ノ價格ト爲スコトヲ得

第四條 第二條又ハ前條ノ規定ニ依リ定ムル買入又ハ賣渡ノ價格ハ經濟事情ノ變動著シキ場合ニ於テハ前二條ノ例ニ依リ之ヲ改定スルコトヲ得

第五條 食糧管理法第七條第一項ノ規定ニ依ル主要食糧ノ貸付ハ災害事變其ノ他之ニ準ズベキ事由アル場合ニ於テ道府縣ガ市町村、産業組合、農會等ニ對シ主要食糧ノ貸付又ハ賣渡ヲ爲サントスル場合ニ當該道府縣ニ對シテ之ヲ行フ

前項ノ貸付ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 食糧管理法第七條第一項ノ規定ニ依ル主要食糧ノ交付ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ之ヲ行フ

- 一 公共團體、公益法人其ノ他農林大臣ノ適當ト認ムル者ガ主要食糧ヲ試驗研究ノ用ニ供セントスルトキ
- 二 災害事變ニ際シ市町村ガ比ノ住民ニ主要食糧ヲ貸付又ハ交付スル場合ニ道府縣ガ當該市町村ニ對

シ主要食糧ヲ交付セントストキ

前項ノ交付ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 農林大臣ハ食糧管理法第九條ノ規定ニ基キ米麥ノ生産者又ハ土地ニ付權利ヲ有シ小作料トシテ之ヲ受クル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ生産シ又ハ小作料トシテ受ケタル米麥(同法第三條第一項ノ規定ノ適用ヲ受クルモノヲ除ク)ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノヲ販賣組合、農業倉庫業者其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ニ賣渡シ又ハ其ノ販賣ノ委託ヲ爲スベキコト命ズルコトヲ得

第八條 農林大臣ハ食糧管理法第九條ノ規定ニ基キ米麥ノ生産者又ハ土地ニ付權利ヲ有シ小作料トシテ之ヲ受クル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ生産シ又ハ小作料トシテ受ケタル米麥ニシテ前條又ハ同法第三條第一項ノ規定ノ適用ヲ受クルモノノ保管ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第九條 農林大臣ハ食糧管理法第九條ノ規定ニ基キ販賣組合、農業倉庫業者、販賣組合聯合會、地方食糧管理其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ニ對シ米麥ノ買受若ハ販賣ノ受託又ハ其ノ者ガ買受ケ若ハ販賣ノ委託ヲ受ケタル米麥ノ賣渡若ハ販賣ノ委託ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十條 農林大臣ハ食糧管理法第九條ノ規定ニ基キ第七條、前條又ハ同法第三條第一項ノ規定ニ依リ賣渡又ハ販賣ノ委託ヲ爲スベキ場合ヲ除クノ外米麥ヲ所有スル者ニ對シ其ノ者ノ行フ米麥ノ賣渡又ハ販賣ノ委託ニ關シ其ノ相手方ヲ制限スルコトヲ得

第十一條 精米又ハ精麥ノ設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲サントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ農林大臣ノ許可ヲ受クベシ

第十二條 農林大臣ハ食糧管理法第十條ノ規定ニ基キ主要食糧ノ價格、加工賃又ハ製造ノ料金ノ額ヲ指定スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル額ノ指定ハ告示ニ依リテ之ヲ爲ス

第一項ノ規定ニ依リ額ノ指定アリタルトキハ他ノ法令ニ拘ラス其ノ額ヲ超エテ主要食糧ノ價格、加工賃又ハ製造ノ料金ノ額ヲ契約シ、支拂ヒ又ハ受領スルコトヲ得ズ但シ命令ノ定ムル所ニ依リ價格、加工賃又ハ製造ノ料金ノ支拂者又ハ受領者ニ於テ農林大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
第一項ノ指定ハ指定實施ノ際現ニ存スル契約ニシテ其ノ際左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ對シテハ影響ヲ及ボスコトナシ

- 一 注文品ノ價格又ハ製造ノ料金ニ付生産者又ハ製造者ガ生産又ハ製造ニ著手シタルモノ
- 二 注文品以外ノモノノ價格ニ付買主其ノ他ノ支拂者ガ目的物ノ引渡ヲ受ケタルモノ
- 三 加工賃ニ付加工者ガ目的物ノ引渡ヲ受ケタルモノ

第十三條 前條ノ規定ハ契約ノ當事者ニシテ利益ヲ目的トシテ當該契約ヲ爲スニ非ザルモノニハ之ヲ適

用セズ但シ當該契約ヲ爲スコトガ自己ノ業務ニ屬スル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十四條 第十二條ノ規定ハ左ニ掲グル價格、加工賃又ハ製造ノ料金ニハ之ヲ適用セズ

一 關東州、滿洲及支那以外ノ地ト内地トノ間ニ於ケル輸出入取引ノ價格

二 其ノ他命令ヲ以テ定ムルモノ

第十五條 何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ第十二條ノ規定ニ依ル禁止ヲ免ルル行爲ヲ爲スコトヲ得ズ

第十六條 食糧管理法第十一條第一項ノ規定ニ依ル許可ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ之ヲ受

クルコトヲ要セズ

一 政府ノ命令ニ依リ米麥ヲ輸出若ハ移出シ又ハ輸入若ハ移入スルトキ

二 政府ガ米麥ノ買入又ハ賣渡ヲ爲ス場合ニ於テ其ノ委託ヲ受ケ米麥ヲ輸入若ハ移入シ又ハ輸出若ハ

移出スルトキ

三 船用品タル米麥又ハ命令ヲ以テ定ムル旅客ノ携帶品タル米麥、標本米麥其ノ他之ニ準ズベキモノ

ヲ輸出若ハ移出シ又ハ輸入若ハ移入スルトキ

第十七條 農林大臣ハ本令ニ定ムル職權ノ一部ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

第十八條 農林大臣必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ市町村長又ハ之ニ準ズベキモノヲシ

テ主要食糧ノ管理ノ實施ニ關シ必要ナル事務ヲ行ハシムルコトヲ得

前項ノ事務ニ關スル費用ハ命令ノ定ムル所ニ依リ市町村又ハ之ニ準ズベキモノヲシテ之ヲ負擔セシム

ルコトヲ得

第十九條 食糧管理法第四條第一項ノ規定ニ依ル指定及同法第十一條第一項ノ規定ニ依ル許可ハ農林大

臣之ヲ行フ

食糧管理法第十五條第一項第三項、第十六條第一項、第十八條乃至第二十條、第二十一條第一項、第

二十三條、第二十六條第一項、第四十六條、第四十七條第一項第二項及第四十九條第一項中政府トア

ルハ農林大臣トシ同法第二十五條第二項、第二十九條ニ於テ準用スル同法第十五條第三項、第十九條

第三項、第二十條、第二十一條第一項及第二十三條並ニ第五十一條ニ於テ準用スル同法第四十六條、

第四十七條第一項第二項及第四十九條第一項中政府トアルハ地方長官トス

食糧管理法第十四條第一項及第三十條中政府トアルハ中央食糧營團ニ付テハ農林大臣トシ地方食糧營

團ニ付テハ地方長官トス

第二十條 農地開發法施行令第二章第一節及第二章第四節ノ規定ハ食糧營團ニ付テハ準用ス但シ同令第

三十三條中農林大臣トアルハ地方食糧營團ニ付テハ地方長官トス

農地開發法施行令第二章第二節ノ規定ハ中央食糧營團ニ付之ヲ準用ス

第二十一條 食糧營團ノ登記ニ關シ必要ナル事項ヘ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

第二十二條 本令ハ昭和十七年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十三條 食糧管理法第三條第二項ノ買入ノ價格及同法第四條第二項ノ賣渡ノ價格ニシテ本令施行ノ際必要ナルモノハ米穀配給統制法第四條及價格等統制令第七條ノ規定ニ基キ定メタル米麥ノ政府ノ買入及賣渡ノ價格ニ準據シテ本令施行ノ日ニ農林大臣之ヲ定ム

第三條第五項及第四條ノ規定ヘ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十四條 小麥粉ハ昭和十八年十月三十一日迄ハ命令ノ定ムル所ニ依リ農林大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ輸出若ヘ移出又ハ輸入若ヘ移入スルコトヲ得ズ但シ船用品、郵便物其ノ他命令ヲ以テ定ムルモノハ此ノ限ニ在ラズ

農林大臣必要アリト認ムルトキハ前項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ小麥粉ノ輸出若ヘ移出又ハ輸入若ヘ移入ヲ爲スコトヲ得ル者ノ範圍ヲ制限スルコトヲ得

第二十五條 粟及高粱ノ輸入税ハ昭和十七年十月三十一日迄之ヲ免除ス

第二十六條 左ニ掲グル勅令ハ之ヲ廢止ス

一 米穀統制法施行令

二 米穀自治管理法施行令

三 糧共同貯藏助成法施行令

四 政府所有米穀特別處理法施行令

五 昭和八年勅令第三百二十三號

六 昭和十三年勅令第七百八十一號

七 昭和十六年勅令第八百六十三號

第二十七條 米穀統制法第六條ノ規定ニ依リ道府縣ニ貸付シタル米穀ハ食糧管理法第七條第一項ノ規定ニ依リ之ヲ貸付シタルモノト看做ス

第二十八條 米穀統制法第七條ノ規定ニ依リ爲シタル輸出又ハ輸入ノ許可ハ食糧管理法第十一條第一項ノ規定ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス

食糧管理法第十一條第二項ノ規定ヘ前項ノ場合ニ之ヲ適用セズ

第二十九條 米穀統制組合、地方米穀統制組合聯合會及米穀商統制組合ハ米穀自治管理法廢止ノ日ニ解散ス

前項ノ法人ハ解散ノ後ト雖モ清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ仍存続スルモノト看做ス

第一項ノ法人ノ清算ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十條 政府ノ出資ニ係ル日本米穀株式會社ノ株式ハ米穀配給統制法第二十四條第二項ノ規定ニ拘ラズ之ヲ政府出資特別會計ノ所屬物件ト爲スコトヲ得

第三十一條 食糧管理法第四十七條第二項ノ規定ニ依リ解散ヲ命ズルコトヲ得ル法人ハ日本米穀株式會社、全國製粉配給株式會社、全國米穀商業組合聯合會、日本精麥工業組合聯合會及日本製麵工業組合聯合會トス

農林大臣ハ前項ノ法人ニ對シ其ノ指定スル日ニ於ケル財産目錄、貸借對照表及株主名簿又ハ出資者名簿ノ提出ヲ命ズルモノトス

第三十二條 食糧管理法第四十七條第二項ノ規定ニ依リ解散ノ命令アリタル後ハ同項ノ命令ヲ受ケタル法人(以下受命法人ト稱ス)ノ業務ヲ執行スル役員ハ農林大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ當該法人ノ常務ニ屬セザル行爲ヲ爲スコトヲ得ズ

第三十三條 設立委員ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル書面ヲ作成シ受命法人ノ株式又ハ出資ニ對スル中央食糧營團ノ出資ノ引當ニ付農林大臣ノ認可ヲ受クベシ

一 中央食糧營團ノ出資ヲ引當テラルベキ受命法人ノ株式又ハ出資ノ數及拂込金額

二 第三十一條第二項ノ農林大臣ノ指定スル日ニ於ケル受命法人ノ財産ノ概況

三 受命法人ノ株式又ハ出資ニ中央食糧營團ノ出資ヲ引當ツル方法

四 受命法人ノ株式又ハ出資ニ中央食糧營團ノ出資ヲ引當ツル場合ニ於テ受命法人ノ株主又ハ出資者ニ支拂ヲ爲スベキ金額ヲ定メタルトキハ其ノ額

前項ノ認可アリタルトキハ設立委員ハ前項第三號第四號ニ掲グル事項ヲ公告スベシ

第三十四條 前條第一項ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル方法ニ依ル引當ニ適セザル數ノ株式又ハ出資アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ中央食糧營團ノ出資ヲ賣却シ之ニ依リテ得タル金額ヨリ賣却ニ要シタル費用ヲ控除シタル殘餘ノ金額ヲ受命法人ノ株主又ハ出資者ニ對シ其ノ株式又ハ出資ノ數ニ應ジテ交付スルコトヲ要ス

第三十五條 受命法人ノ株式又ハ出資ニ中央食糧營團ノ出資ヲ引當テタル場合ニ於テ從前ノ株式又ハ出資ヲ目的トスル質權ハ引當ニ因リテ受命法人ノ株主又ハ出資者ガ受クベキ金額又ハ出資ノ上ニ存在ス

會長ハ會務ヲ總理ス

會長事故アルトキハ農林大臣ノ指名スル委員其ノ職務ヲ代理ス

中央委員會ニ幹事及書記ヲ置ク農林大臣之ヲ命ズ

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理シ書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第四十三條 地方食糧配給事業評價委員會（以下地方委員會ト稱ス）ハ地方長官ノ監督ニ屬シ食糧管理

法第五十一條ニ於テ準用スル同法第四十八條第二項ノ規定ニ依リ其ノ權限ニ屬セシメタル事項ヲ調査

審議ス

地方委員會ハ道府縣ニ之ヲ置キ當該道府縣ノ名ヲ冠ス

前條第二項乃至第七項ノ規定ハ地方委員會ニ之ヲ準用ス但シ同條第二項中二十人トアルハ十五人トシ

同條第三項、第五項及第六項中農林大臣トアルハ地方長官トス

（參照）

勅令第七百八十一號ハ米穀統制法第九條ノ規定ニ依ル粟及高粱ノ輸入税免除ノ件ナリ

内
閣

参照

朝鮮農地開發管團令

内閣



日本標準規格四列(十一行全)(山形納)

内閣

内閣

日本標準規格(十一行)(山田納)

朝鮮農地開發營團令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ公布ス

昭和十七年十二月八日

朝鮮總督 小磯 國昭

制令第三十四號(官報十二月二十六日)

朝鮮農地開發營團令

第一條 朝鮮農地開發營團ハ重要農産物ノ増産ヲ圖ル爲ニ必要ナル農地ノ開發ニ關スル事業ヲ行フコトヲ目的トス

第二條 朝鮮農地開發營團ハ其ノ主タル事務ヲ京城府ニ置ク

朝鮮農地開發營團ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ必要ノ地ニ從タル事務所ヲ設置スルコトヲ得

第三條 朝鮮農地開發營團ノ資本ハ千萬圓トシ之ヲ十萬口ニ分チ一口ノ出資金額ヲ百圓トス但シ資本ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ之ヲ増加スルコトヲ得

第四條 朝鮮農地開發營團ノ出資者ハ政府、公共團體、帝國臣民又ハ帝國法人ニシテ社員、株主若ハ業務ヲ執行スル役員ノ半數以上、資本ノ半額以上若ハ議決權ノ過半數ヲ外國人若ハ外國法人ニ屬セザルモノタルコトヲ要ス

第五條 朝鮮農地開發營團ハ出資ニ對シ出資證券ヲ發行ス

出資證券ニ關シ必要ナル事項ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第六條 政府ノ引受ケタル出資ノ出資金拂込ハ其ノ他ノ出資ノ出資金拂込ト之ヲ異ニスルコトヲ得

第七條 朝鮮農地開發營團ノ出資者ノ責任ハ其ノ出資額ヲ限度トス

出資者ハ朝鮮農地開發營團ニ拂込ムベキ出資額ニ付相殺ヲ以テ之ニ對抗スルコトヲ得ス

第八條 出資者ハ朝鮮農地開發營團ノ承認ヲ經テ其ノ持分ヲ讓渡スコトヲ得

第九條 拂込ヲ怠リタル出資者ニ對シ朝鮮農地開發營團ガ一月以上ノ相當ノ期間ヲ定メ拂込ノ請求ヲ爲シタルニ拘ラズ出資者ガ拂込ヲ爲サザルトキハ朝鮮農地開發營團ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ其ノ出資者ノ持分ヲ處分スルコトヲ得

朝鮮農地開發營團ハ持分ノ處分ニ依リテ得タル金額ヨリ滯納金額及定款ヲ以テ定メタル違約金ノ額ヲ控除シタル金額ヲ從前ノ出資者ニ拂戻スコトヲ要ス

持分ノ處分ニ依リテ得タル金額ガ滯納金額ニ滿タザル場合ニ於テハ朝鮮農地開發營團ハ從前ノ出資者ニ對シ不足額ノ辨濟ヲ請求スルコトヲ得

前三項ノ規定ハ朝鮮農地開發營團ガ損害賠償及定款ヲ以テ定メタル違約金ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ゲズ

出資者ガ第一項ノ期間内ニ拂込ヲ爲サザルトキハ朝鮮農地開發營團ハ其ノ出資者ニ對シ二週間以内ニ出資證券ヲ朝鮮農地開發營團ニ提出スベキ旨ヲ通知スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テ提出ナキ出資證券ハ其ノ效力ヲ失フ

前項ノ場合ニ於テハ朝鮮農地開發營團ハ遲滞ナク失効シタル出資證券ノ番號並ニ其ノ出資者ノ氏名及住所ヲ公告スルコトヲ要ス

第十條 朝鮮農地開發營團ハ定款ヲ以テ左ノ事項ヲ規定スベシ

一 目的

二 名稱

三 事務所ノ所在地

四 資本金額、出資及資産ニ關スル事項

五 役員及會議ニ關スル事項

六 業務及其ノ執行ニ關スル事項

昭和十七年十二月 制令 第三十四號 朝鮮農地開發營團令

<p>七 朝鮮農地開發債券ノ發行ニ關スル事項</p> <p>八 會計ニ關スル事項</p> <p>九 公告ノ方法</p> <p>定款ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ之ヲ變更スルコトヲ得</p> <p>第十一條 朝鮮農地開發營團ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス</p> <p>前項ノ規定ニ依リ登記スベキ事項ハ登記ノ後ニ非ザレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ</p> <p>第十二條 朝鮮農地開發營團ニ付解散ヲ必要トスル事由發生シタル場合ニ於テ其ノ處置ニ關シテハ別ニ之ヲ定ム</p> <p>第十三條 朝鮮農地開發營團ニ非ザル者ハ朝鮮農地開發營團又ハ之ニ類似スル名稱ヲ用フルコトヲ得ズ</p> <p>第十四條 朝鮮民事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル民法第四十四條、第五十條、第五十四條、第五十五條及第五十七條並ニ非訟事件手續法第三十五條第一項ノ規定ハ朝鮮農地開發營團ニ之ヲ準用ス</p> <p>第十五條 朝鮮農地開發營團ニ理事長副理事長各一人、理事三人以上及監事二人以上ヲ置ク</p>	<p>第十六條 理事長ハ朝鮮農地開發營團ヲ代表シ其ノ業務ヲ總理ス</p> <p>副理事長ハ理事長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ理事長缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ</p> <p>副理事長及理事ハ理事長ヲ輔佐シ定款ノ定ムル所ニ依リ朝鮮農地開發營團ノ業務ヲ分掌シ又ハ之ニ參與ス</p> <p>第十七條 朝鮮農地開發營團ノ業務ヲ監督スル事ハ朝鮮總督ノ命ニ依リ</p> <p>第十八條 理事長、副理事長、理事及監事ハ任期ハ四年、監事ノ任期ハ二年トス</p> <p>第十九條 理事長、副理事長及業務ヲ分掌スル理事ハ他ノ職業ニ従事スルコトヲ得ズ但シ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ</p> <p>第二十條 朝鮮農地開發營團ニ評議員若干人ヲ置キ朝鮮總督ノ命ニ依リ</p> <p>第二十一條 評議員ハ事業經營ニ關スル重要事項ニ付理事長ノ諮問ニ應ジ必要アルトキハ之ニ對シ意見ヲ述ブルコトヲ得</p> <p>第二十二條 評議員ハ名譽職トシ其ノ任期ハ二年トス</p>	<p>一 農地ノ造成及改良ニ關スル事業</p> <p>二 前號ノ事業ニ附帯スル事業</p> <p>三 其ノ他朝鮮農地開發營團ノ目的達成上必要ナル事業</p> <p>朝鮮農地開發營團前項第二號又ハ第三號ノ事業ヲ行ハントスルトキハ朝鮮總督ノ認可ヲ受クベシ</p> <p>第二十一條 朝鮮農地開發營團ハ拂込資本金額ノ五倍ヲ限リ朝鮮農地開發債券ヲ發行スルコトヲ得</p> <p>第二十二條 朝鮮農地開發債券ハ額面金額五十圓以上トシ無記名式利札付トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名式ト爲スコトヲ得</p> <p>第二十三條 朝鮮農地開發營團ハ朝鮮農地開發債券借換ノ爲一時第二十一條ノ制限ニ依ラズ朝鮮農地開發債券ヲ發行スルコトヲ得</p> <p>前項ノ規定ニ依リ朝鮮農地開發債券ヲ發行シタルトキハ發行後一月以内ニ其ノ發行額面金額ニ相當スル朝鮮農地開發債券ヲ償還スベシ</p> <p>第二十四條 朝鮮農地開發營團ニ於テ朝鮮農地開發債券ヲ發行セントスルトキハ朝鮮總督ノ認可ヲ受クベシ</p>	<p>第二十五條 朝鮮農地開發債券ノ消滅時効ハ元金ニ在リテハ十五年、利子ニ在リテハ五年ヲ以テ完成ス</p> <p>第二十六條 朝鮮農地開發債券ノ所有者ハ朝鮮農地開發營團ノ財産ニ付他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス</p> <p>前項ノ規定ハ朝鮮民事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル民法ノ一般ノ先取特權ノ行使ヲ妨グルコトナシ</p> <p>第二十七條 朝鮮所得稅令及朝鮮資本利子稅令中國債以外ノ公債ニ關スル規定ハ朝鮮農地開發債券ニ之ヲ準用ス</p> <p>第二十八條 第二十一條乃至前條ニ規定スルモノヲ除ク外朝鮮農地開發債券ニ關シ必要ナル事項ハ朝鮮總督ノ定ム</p> <p>第二十九條 朝鮮農地開發營團ノ事業年度ハ毎年四月ヨリ翌年三月迄トス</p> <p>第三十條 朝鮮農地開發營團ハ設立ノ時及毎事業年度ノ初ニ於テ財産目録、貸借對照表及損益計算書ヲ作成シ定款ト共ニ之ヲ各事務所ニ備置クコトヲ要ス</p> <p>債權者ハ業務時間内何時ニテモ前項ニ掲グル書類ノ閲覧ヲ求ムルコトヲ得</p>	<p>第三十一條 剩餘金ノ處分ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ</p> <p>第三十二條 朝鮮農地開發營團ハ其ノ資本金額ノ四分ノ一ニ達スル迄ハ毎事業年度ニ於テ準備金トシテ剩餘金ノ百分ノ八以上ヲ積立ツベシ</p> <p>前項ノ準備金ハ朝鮮總督ノ定ムル場合ヲ除ク外之ヲ使用スルコトヲ得ズ</p> <p>第三十三條 朝鮮農地開發營團ハ拂込ミタル出資金額ニ對シ朝鮮總督ノ定ムル割合ヲ超エテ剩餘金ノ配當ヲ爲スコトヲ得ズ</p> <p>朝鮮農地開發營團ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ政府ノ出資ニ對シ剩餘金ノ配當ヲ減額シ又ハ之ヲ爲サザルコトヲ得</p> <p>第三十四條 朝鮮農地開發營團ハ朝鮮總督ノ命ニ依リ</p> <p>第三十五條 朝鮮總督ハ朝鮮農地開發營團ニ對シ業務及財産ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲サシメ、検査ヲ爲シ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得</p> <p>第三十六條 朝鮮總督ハ朝鮮農地開發營團ノ業務ヲ監督スル事ハ朝鮮總督ノ命ニ依リ</p>	<p>朝鮮農地開發營團監理官ハ何時ニテモ朝鮮農地開發營團ノ業務及財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得</p> <p>朝鮮農地開發營團監理官ハ必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ朝鮮農地開發營團ニ命ジ業務及財産ノ狀況ヲ報告セシムルコトヲ得</p> <p>朝鮮農地開發營團監理官ハ朝鮮農地開發營團ノ諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得</p> <p>第三十七條 理事長、副理事長、理事又ハ監事ガ法令、定款若ハ朝鮮總督ノ命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ朝鮮總督ハ之ヲ解任スルコトヲ得</p> <p>第三十八條 土地ノ農業上ノ利用ヲ増進スル目的ヲ以テ朝鮮農地開發營團ガ朝鮮總督ノ定ムル區域及計畫ニ依リ行フ左ノ各號ノ一ニ該當スル事業(以下農地開發事業ト稱ス)ハ第三十九條乃至第五十二條ノ定ムル所ニ依ル</p> <p>一 他人ノ所有ニ係ル農地又ハ農耕ニ適スル土地ノ改良ヲ目的トスル農業水利施設ノ新設、廢止又ハ變更</p>
--	--	--	---	--	--

昭和十七年十二月 制令 第三十四號 朝鮮農地開發營團令

理事ノ分掌業務ニ係ルトキハ副理事長又ハ理事ヲ過料ニ處スルコト亦同ジ

第五十六條 朝鮮農地開發營團ノ理事長、副理事長又ハ業務ヲ分掌スル理事第十八條ノ規定ニ違反シ他ノ職業ニ従事シタルトキハ千圓以下ノ過料ニ處ス

第五十七條 第十三條ノ規定ニ違反シ朝鮮農地開發營團又ハ之ニ類似スル名稱ヲ用ヒタル者ハ千圓以下ノ過料ニ處ス

附則

第五十八條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五十九條 朝鮮總督ハ設立委員ヲ命ジ朝鮮農地開發營團ノ設立ニ關スル事務ヲ處理セシム

第六十條 設立委員ハ定款ヲ作成シ朝鮮總督ノ認可ヲ受クベシ

第六十一條 設立委員ハ出資者ノ募集ヲ終リタルトキハ出資申込書ヲ朝鮮總督ニ提出シ設立ノ認可ヲ申請スベシ

前項ノ認可ヲ受ケタルトキハ設立委員ハ遲滞ナク出資第一回ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ要ス

第六十二條 出資第一回ノ拂込完了シタルトキハ出資者ノ總會ヲ召集スベシ

前項ノ總會終結シタルトキハ設立委員ハ遲滞ナク其ノ事務ヲ朝鮮農地開發營團理事長ニ引渡スベシ

理事長前項ノ事務ノ引渡ヲ受ケタルトキハ理事長、副理事長、理事及監事ノ全員ハ主タル事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スベシ

朝鮮農地開發營團ハ設立ノ登記ヲ爲スニ因リテ成立ス

第六十三條 本令ニ規定スルモノヲ除ク外朝鮮農地開發營團ノ設立ニ關シ必要ナル事項ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第六十四條 朝鮮所得稅令中左ノ通改正ス

第二十七條ノ八中「朝鮮糖業振興株式會社」ノ上ニ「朝鮮農地開發營團」ヲ加フ

第六十五條 朝鮮登錄稅令中左ノ通改正ス

第三條ノ三「朝鮮農地開發營團」カ朝鮮農地開發營團ニ付登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一 朝鮮農地開發營團ノ拂込
拂込金額 千分ノ一

二 登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止
從タル事務所ノ所在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受クルトキハ每一件一圓五十錢ノ登錄稅ヲ納ムヘシ

第七條第七號中「朝鮮住宅營團」ノ下ニ「朝鮮農地開發營團」ヲ、「朝鮮住宅營團令」ノ下ニ「朝鮮農地開發營團令」ヲ、「恩給債券」ノ下ニ「朝鮮農地開發營團」ヲ加ヘ「恩給金庫法」又ハ「朝鮮農地開發營團令」ヲ「恩給金庫法」朝鮮農地開發營團令又ハ朝鮮金融組合聯合會令ニ改ム

同條第十四號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

十四ノ二 朝鮮農地開發營團カ農地開發事業ノ爲ニスル土地ノ權利ノ取得又ハ所有權ノ保存ノ登記

第六十六條 印紙稅令中左ノ通改正ス

第一條第二項但書中「朝鮮金融組合聯合會」ノ下ニ「農地開發營團」トアルハ朝鮮農地開發營團「ヲ加フ

臺灣米穀移出管理令大正十年法律第三號ニ依リ勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ公布ス
昭和十四年五月十日
臺灣總督 小林 躋造

臺灣米穀移出管理令

第一條 政府ハ産業ノ調和的發達並ニ農業經營ノ安定及改善ヲ圖ル爲本令ニ依リ米穀ノ移出ヲ管理ス

第二條 政府ハ移出目的トスル米穀ノ買入及賣渡ヲ行フ

第三條 政府ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ毎年第一期作米及第二期作米毎ニ米穀ノ買入價格ヲ定メ其ノ作付前ニ之ヲ告示ス

前項ノ買入價格ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ米穀生産費、物價其ノ他ノ經濟事情ヲ參酌シテ之ヲ定ム

政府ハ第一項ノ買入價格ノ決定ニ付テハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ金利、保管料及損耗補償金ヲ加算スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依リ定メタル買入價格ハ物價ノ變動著シキ場合又ハ米穀ノ需給狀況ニ著シキ變動ヲ生ジ若ハ生ズルノ虞アル場合ニ於テハ之ヲ改定スルコトヲ得

第四條 前條ノ買入價格ノ決定及改定ハ臺灣米穀移出管理委員會ニ諮問シテ之ヲ爲ス

第五條 政府ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ第三條ノ買入價格ニ依ル賣渡ノ申込ニ應ジテ米穀ノ買入ヲ爲ス但シ臺灣ニ於テ消費セラルベキ米穀ノ數量ニ不足ヲ生ズルノ虞アルトキハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ賣渡ノ申込ニ應ゼザルコトヲ得

第六條 政府ハ内地ニ於ケル時價ニ準據シタル價格ヲ以テ移出目的トスル米穀ノ賣渡ヲ爲ス

第七條 米穀ハ政府ノ所有スルモノ及臺灣總督ノ定ムルモノヲ除クノ外前條ノ規定ニ依リ政府ノ賣渡シタルモノニ非ザレバ之ヲ移出スルコトヲ得ズ

第八條 政府ハ米穀ノ配給上必要アリト認ムルトキハ臺灣ニ於ケル消費ニ充ツル爲時價ニ準據シタル價格ヲ以テ米穀ノ賣渡ヲ爲スコトヲ得

第九條 政府ハ必要ニ應ジ所有米穀ノ貯藏及加工並ニ輸出目的トスル賣渡ヲ爲スコトヲ得

前項ノ賣渡ノ價格ハ時價ニ準據シテ之ヲ定ム

第十條 米穀ノ生産費、生産高、現在高、移動及價格並ニ物價ノ調査ニ關シ必要ナル事項ハ臺灣總督之ヲ定ム

昭和十八年八月三日

内閣書記官長

出

内閣書記官

十八
八
七

内閣總理大臣

法制局長官

外務大臣

海軍大臣

商工大臣

大東亞大臣

内務大臣

司法大臣

逓信大臣

陸軍大臣

大藏大臣

文部大臣

鐵道大臣

陸軍大臣

陸軍大臣

農林大臣

厚生大臣

後藤

別紙大藏農林兩大臣請議農地開發事業令中改正ノ件

第十一條 政府ハ前條ニ規定スル事項其ノ他米穀ノ移出ノ管理ニ關シ必要ナル事項ヲ調査スル爲テ必要アリト認ムルトキハ米穀ノ生産者、取引業者、倉庫業者其ノ他占有者ニ對シ必要ナル事項ノ報告ヲ命ジ又ハ當該官吏ヲシテ其ノ營業所、工場、倉庫其ノ他ノ場所ニ臨檢シ帳簿物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ當該官吏ハ其ノ身分ヲ證明スル證據ヲ携帯スベシ

第十二條 第七條ノ規定ニ違反シテ米穀ヲ移出シタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ米穀ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十一條第一項ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ又ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタル者

二 第十一條第一項ノ規定ニ依ル當該官吏ノ臨檢検査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ其ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者

第十四條 營業者ハ其ノ代理人、戸主、家族、雇人其ノ他ノ從業者方其ノ業務ニ關シ第十二條又ハ前條第一號ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザル

故テ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第十五條 第十二條及第十三條第一號ノ罰則ハ其ノ者方法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

附則

本令施行ノ期日ハ各規定ニ付臺灣總督之ヲ定ム